

平成 25 年度事業報告

社会福祉法人ゆうかり学園

1、評議員会・理事会の開催状況

本年度は、下記のとおり評議員会及び理事会を開催した。

第一回評議員会 平成 25 年 5 月 24 日（金）

評議員 13 名中 10 名出席

- | | |
|-------|-------------------------|
| 第一号議案 | 平成 24 年度事業報告（案）審議の件 |
| 第二号議案 | 平成 24 年度決算報告（案）審議の件について |
| 第三号議案 | 監事監査報告の件について |
| 第四号議案 | 任期満了に伴う役員改選の件について |
| 第五号議案 | 定款変更の件について |

第一回理事会 平成 25 年 5 月 24 日（金）

理事 6 名中 6 名出席 監事 2 名中 2 名出席

- | | |
|-------|-----------------------------------|
| 第一号議案 | 平成 24 年度事業報告（案）審議の件 |
| 第二号議案 | 平成 24 年度決算報告（案）審議の件について |
| 第三号議案 | 監事監査報告の件について |
| 第四号議案 | 任期満了に伴う役員改選及び理事長選任の件について |
| 第五号議案 | 定款変更の件について |
| 第六号議案 | 就業規則、経理規程変更の件について |
| 第七号議案 | 移行時特別積立金及び積立預金の取崩しについて |
| 第八号議案 | 久留米市指導監査に伴う宿日直手当の遡及について
(耳納学園) |
| 第九号議案 | 賛助会員制度の導入の件について |
| 第十号議案 | その他の件 |

第二回理事会 平成 25 年 9 月 10 日 (火)

理事 6 名中 6 名出席

第一号議案 福祉医療機構への借入金増額審議の件について

第二号議案 第一千歳療護園、第二千歳療護園 (仮称)

移転新築工事の件について

第三回理事会 平成 25 年 9 月 27 日 (金)

理事 6 名中 6 名出席

第一号議案 第一千歳療護園、第二千歳療護園 (仮称)

移転新築工事に伴う業者との契約について

第二回評議員会 平成 25 年 12 月 3 日 (火)

評議員 13 名中 12 名出席

第一号議案 平成 25 年度第一次補正予算 (案) 審議の件

第二号議案 旧施設解体工事完了に伴い基本財産から削除すること
及び定款第 18 条の基本財産からの削除に関する審議
の件について

第三号議案 その他の件

第四回理事会 平成 25 年 12 月 3 日 (火)

理事 6 名中 6 名出席 監事 2 名中 2 名出席

第一号議案 評議員欠員補充の件について

第二号議案 平成 25 年度第一次補正予算 (案) 審議の件について

第三号議案 旧施設解体工事完了に伴い基本財産から削除すること
及び定款第 18 条の基本財産からの削除に関する審議
の件について

第四号議案 就業規則等改正案審議の件について

- ① 就業規則
- ② 臨時職員就業規則
- ③ 経理規程
- ④ 職員の服務宣誓に関する規程
- ⑤ 入所者預り金管理規程

- 第五号議案 積立預金取崩しに関する審議の件について
- ① 建設積立預金（本部）
 - ② 人件費積立預金（ゆうかり医療療育センター）
 - ③ 修繕費積立預金（ゆうかり医療療育センター）
- 第六号議案 おぎゃー献金基金補助金申請について
- 第七号議案 監査結果報告の件について
- ① 福岡県
 - ② 久留米市
 - ③ 久留米市保健所
- 第八号議案 人事院勧告の件について
- 第九号議案 千歳療護園建築工事経過報告の件について
- 第十号議案 その他の件について

第三回評議員会 平成 26 年 3 月 20 日（木）

評議員 13 名中 11 名出席

- 第一号議案 平成 25 年度第二次補正予算（案）審議の件
- 第二号議案 平成 26 年度事業計画（案）審議の件について
- 第三号議案 平成 26 年度当初予算（案）審議の件について
- 第四号議案 千歳療護園移転新築工事関係について
- ① 第一千歳療護園・第二千歳療護園（仮称）
移転新築資金借入について
 - ② 千歳療護園の解体について
 - ③ その他（進捗状況等）

第五回理事会 平成 26 年 3 月 20 日（木）

理事 6 名中 6 名出席 監事 2 名中 2 名出席

- 第一号議案 平成 25 年度第二次補正予算（案）審議の件
- 第二号議案 平成 26 年度事業計画（案）審議の件について
- 第三号議案 平成 26 年度当初予算（案）審議の件について
- 第四号議案 就業規則の変更について
- 第五号議案 千歳療護園移転新築工事関係について
- ① 第一千歳療護園・第二千歳療護園（仮称）
移転新築資金借入について
 - ② 千歳療護園の解体について
 - ③ その他（進捗状況等）
- 第六号議案 消費税改定に伴う本法人の対応について

- 第七号議案 監査等指導内容及び改善報告について
- ① 福岡県指導監査（25年8月8日実施）
 - ② 久留米市実地指導
(25年11月6日、11月27日実施)
 - ③ 病院立入検査（25年11月26日実施）
- 第八号議案 久留米市田主丸町財産区「河童の森、森林吸収プロジェクト」について
- 第九号議案 施設長等の契約更新について
- 第十号議案 ゆうかり医療療育センター当直業務委託について
- 第十一号議案 その他の件について

2、平成25年度心身障害児者の施設利用状況

ゆうかり医療療育センターの医療型では延9,686名、一日平均26.5名であり、療養介護では延34,316名、一日平均94.0名であった。入所率は150定員に対して80.4%であり、入所児の減少傾向がより顕著となっている。短期入所では30名の利用があり、延利用回数は491回であった。一方、日中一時支援も30名の利用があり、延354回の利用があった。

コアラ園では、児童発達支援（定員20名）に対し延2,143名、一日平均8.89名が利用された。また、放課後等デイサービス（定員10名）では延407名、一日平均1.69名であった。

耳納学園においては、延12,528名の利用があり、一日平均34.3名で、充足率は就労継続支援B型（定員40名）では83.6%、施設入所支援（定員34名）は100.9%であった。

千歳療護園では延29,843名の利用があり、一日平均82.0名で、充足率は、生活介護（定員90名）では96.3%、施設入所支援（定員80名）では、102.2%であった。又、ショートステイ利用者は、年間延124名、日中一時の利用はなかった。

施設毎の事業報告の詳細は別紙の通りである。

3、移転新築落成式の挙行

4月18日、地域支援棟地域交流ホールにて落成式及び昼食会（大研修室）を開催した。行政関係、施設関係、地域代表者、利用者代表、保護者代表、及び法人役職員150名参加のもと開催した。また、フジタ・福島建設共同企業体、前田建設工業、DEN建築設計事務所へ感謝状及び記念品を贈呈した。

4、千歳療護園新築工事（第四期工事）

平成 25 年度耐震化整備事業として、第一千歳療護園・第二千歳療護園（仮称）新築工事については、25 年 7 月に久留米市の内定通知を受けたので、25 年 9 月 2 日に現場説明会、9 月 25 日に入札会（9 社参加）を開催した。久留米市担当者立会のもと開札を行い、半田・黒田建設特定建設工事共同企業体が 822,700 千円（税抜き）で落札した。9 月 30 日、久留米市の交付決定をうけ、同日建築工事請負契約を締結し、10 月 7 日着工した。

当初、3 月末竣工を目指したが、建築資材の発注や職人確保等が困難を極めたため、工期の延長について久留米市と協議を重ねてその承認を得、26 年 7 月末竣工の予定で進めているところである。

5、賛助会員制度の導入

新築移転を機に地域に密着した施設作りの一環として天然温泉大浴場を設置し、その有効活用を図るために種々検討を行った。利用料を徴収すると公益事業として定款変更の必要性が出てくる可能性があり、熟考の結果、賛助会員制度を導入することとした。社会福祉法人ゆうかり学園の事業運営に賛同し支援していただける方に賛助会員として入会していただき、その特権として週 2 回（毎週水、土曜の 13:00～18:00）大浴場を利用していただくようにした。その他、広報誌の送付（年 4 回）や地域交流ホールや研修室の利用も要望に応じていくこととした。

5 月の理事会の承認を得て 6 月より賛助会員制度をスタートしたが、初年度は年会費無料とし、26 年度より個人会員 2,000 円、団体会員 5,000 円として、3 月 31 日現在個人 177 名、4 団体に入会していただいた。

なお、温泉利用者数は 25 年度（6/1～）延 2,033 名、一日平均 26 名であった。

6、おぎゃー献金助成事業

平成 25 年 10 月 29 日、25 年度おぎゃー献金施設助成金の交付申請書をおぎゃー献金事務局へ提出し、26 年 3 月 31 日交付決定を受けた。事業内容は田主丸特別支援学校への送迎用車両（レジアスウェルキャブ）1 台の購入で、整備費総計 4,848,200 円、全額助成金にて整備する。交付決定を受け 4 月 5 日ネットヨタ甘木営業所へ発注を行った。納車時期は 6 月頃の予定である。

7、利用者のサービス向上に関する事項

苦情解決委員会をはじめとする各委員会活動を通じて、利用者様のサービスの向上、並びに職員の資質向上に努めた。

8、定例事業

(1) 盆踊り・花火大会の開催

恒例の盆踊り花火大会は本年度で28回目を数え、平成25年7月25日(木)、田主丸町植木農業協同組合、福岡県緑化センターを主会場として開催した。

(2) 運動会の開催

平成25年10月20日(日)、田主丸特別支援学校運動場にて開催の予定であったが、移転のため会場への移動等に多大な時間を要することや、駐車場の問題等、安全を確保することに支障があると判断し、急遽各施設・各寮においてお楽しみ会としてそれぞれで工夫をこらし開催した。これまでよりもゆとりがあり、利用者、保護者ともに充実した一日となった。特に保護者からは利用者と触れ合える時間が多く取れて楽しかったと想定以上に好評であった。

(3) 韓国瑞林福祉院との職員交流研修事業

例年4月の後半に標記事業を行っていたが、移転新築落成式の準備・開催等で日程の確保が出来なかったために、本年はその開催を見送ることとした。なお、移転新築落成式には瑞林福祉院の林理事長、金短期保護院長のお二方がお祝いに駆けつけて来ていただいた。

(4) 耳納学園展示即売会

第7回目となる恒例の展示即売会を本年度は1月10日(金)から13日(祝)まで『ゆめタウン久留米 ウェストコート』にて開催した。厳しい経済状況を反映してか、売上げが伸びず、過去最低の売上げに終わった。来年度は売上げを伸ばすべく新製品の開発や集客対策に万全を期すなど一層の工夫を重ねていくこととし、今後も、ゆめタウン久留米様にご協力をいただきながら継続的に開催していくこととする。

9、職員研修事業（園内）

- (1) 外部講師による人権研修
- (2) 新任職員研修

いずれも別添報告書の通り内容を進化させながら実施した。

10、委員会活動

苦情解決委員会はじめ各委員会活動を活発に行ってきた。各委員会からの報告は別添のとおりであった。

施設事業報告

- ・ ゆうかり医療療育センター
- ・ コアラ園
- ・ 相談支援事業所 夢の紀
- ・ 耳納学園
- ・ 千歳療護園
- ・ 障害者支援センター「ちとせ」

医療部診療課 外来

《概況》

外来受診者の中で、入所前診察者は重症化の傾向にあるが、療育前診察は昨年と同様、広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害、言語発達遅滞等の受診者が多く、1人あたりの診察時間は長く要している。又、リハビリ実施計画書に基づく診察も行っているため、診察予約日を早めに設定し、診察がスムーズに出来るよう心掛けた。

平成25年度より、診察室は5室で個室になり、プライバシーが守られ、より良い対応が出来たと思われる。

平成25年度 受診者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
合計	新患	35	54	46	60	56	52	52	61	79	77	80	64	716
	再来	691	960	894	970	870	820	967	1322 ※	980 ※	924	880	941	11,219

※インフルエンザ予防接種者を含む

- ・インフルエンザの流行時期は予防対策として、外来者は受付で体温測定をし、かぜ症状のある時はマスク着用をお願いし、医師に報告し対応した。
- ・入所者の重症化に伴い、ガス滅菌器の使用頻度が増加し、その準備時間とコストは増しているが、感染に対する安全性はより高まった。今後の課題として、コスト面の検討が必要と思われる。

医療部診療課 エックス線

平成 25 年度 エックス線撮影件数

一般撮影

(名)

月 病棟・外来	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
おひさま	20	30	28	30	20	25	32	16	31	23	26	30	311
なかよし	16	21	11	8	12	9	11	7	10	8	5	12	130
ともだち	16	5	9	5	10	3	8	10	8	6	1	4	85
外 来	12	26	15	20	15	20	36	81	44	5	5	27	306
合 計	64	82	63	63	57	57	87	114	93	42	37	73	832

CT

(名)

日 病棟・外来	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
おひさま	0	3	5	2	0	2	2	3	1	0	0	0	18
なかよし	0	3	2	0	1	0	2	0	0	0	0	1	9
ともだち	2	1	2	2	1	1	3	2	0	0	0	1	15
外 来	0	2	2	2	1	0	0	1	0	0	0	0	8
合 計	2	9	11	6	3	3	7	6	1	0	0	2	50

- ・10月は委託業者の健診、11月と12月は35歳未満の職員健診のために外来が増加した。
- ・チューブ確認や胃瘻のための胸腹部の撮影が多かった。
- ・チューブ確認のために透視を使用したいが、利用者様の移乗が困難なことが多く、良い方法を考える必要がある。
- ・CR装置のためにX線写真が鮮明で見やすくなった。
- ・CTをもっと活用したい。

医療部診療課 検査

《概況》

今年度は、利用者様および職員でのインフルエンザウイルスキットの使用は少なく、陽性者はわずか3名であった。

年2回の利用者様の健康診断・年2回の職員、外部健診は、予定どおり実施することが出来た。

25年 月	健診用検査			白血球数・CRP	血液生化学	検尿・検便	血液ガス分析	心電図	脳波	腹部超音波	迅速診断	外注検査
	6カ月	誕生月	外部・入園時									
4	25	21	0	26	12	14	3	15	2	1	19	124
5	21	26	1	23	14	12	4	16	5	2	8	142
6	16	20	1	32	20	14	2	20	1	6	10	116
7	18	17	1	50	14	17	4	18	5	4	22	95
8	19	25	0	21	14	14	0	19	2	2	5	178
9	15	16	0	27	12	12	6	15	2	2	24	109
10	22	23	15	43	20	24	1	34	2	3	11	128
11	25	21	1	35	20	22	4	16	2	5	7	130
12	22	14	3	29	19	15	2	23	2	4	32	147
1	17	18	2	35	16	17	4	2	3	5	44	110
2	24	17	0	29	16	16	3	13	3	3	18	195
3	17	14	2	13	12	13	6	20	3	4	7	144
合計	241	232	26	363	189	190	39	211	32	41	207	1618

《概況》

医師の処方箋に基づき調剤を行った。平成 25 年度の処方箋枚数及び調剤数については下表の通りである。

① 平成 25 年度受付処方箋枚数及び調剤数

外来（千歳、耳納、その他）・病棟（おひさま寮、なかよし寮、ともだち寮）

		外来						病棟					
		臨時		定期		注射		臨時		定期		注射	
月	日数	枚数	剤数	枚数	剤数	枚数	剤数	枚数	剤数	枚数	剤数	枚数	剤数
2013/4	20	100	192	0	0	4	4	958	1152	84	142	83	91
5	21	122	256	0	0	7	7	962	1302	87	150	78	82
6	20	107	249	0	0	5	5	887	1189	88	152	67	70
7	22	128	264	0	0	13	13	1091	1454	87	150	119	124
8	19	110	223	0	0	8	8	847	1056	87	150	69	71
9	19	104	209	0	0	4	4	919	1177	89	156	90	93
10	22	108	225	0	0	5	5	999	1287	87	152	104	110
11	20	128	265	0	0	5	5	936	1199	88	158	99	99
12	21	107	231	0	0	6	6	758	961	87	151	80	83
2014/1	19	78	124	0	0	8	8	1366	1620	93	211	135	136
2	19	68	110	0	0	12	12	818	1108	94	212	44	44
3	20	75	133	0	0	8	8	906	1118	96	218	32	34
合計	242	1235	2481	0	0	85	85	11447	14623	1067	2002	1000	1037

注：注射には吸入処方を含む

② オーダリングシステムの稼働により、効率的な調剤業務が可能となった。

③ 薬事審査会開催

各科先生による新規採用医薬品の申請書提出に基づき審査を行った。

また、医薬品に関する安全性情報などの提供を行った。

④ 救急カート点検

急変時に必要となる注射薬の期限をチェックし、期限の切れたものについては交換を行った。

⑤ インフルエンザワクチン接種取りまとめ

毎年、利用者、職員とその家族を対象にインフルエンザワクチンの接種を行っている。

平成 25 年度の接種状況は次の通りである。

インフルエンザワクチン 370 本使用

接種人数(延べ) 695 人

外来・利用者 1回接種 238名 2回接種 102名
 職員 1回接種 315名 2回接種 40名

- ⑥ 院内感染症対策委員会参加
 感染症に対する知識の確認・意識向上のために、研修会において感染症に関する問題をクイズ形式で実施した。
- ⑦ 医療安全対策委員会参加
 薬局 宮田幸枝による「誤薬」についての講義を行った。
- ⑧ 給食委員会への参加
 臨床検査値の異常が投薬中の薬剤に起因するか否かを検討するとともに、情報提供を行った。
- ⑨ 医療機器安全管理委員会参加

医療部診療課 口腔衛生

園内歯科受診者 平成25年4月1日～平成26年3月31日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
Dr	85	82	114	74	61	68	71	71	85	55	89	77	932
D.H	208	252	294	249	211	221	273	248	231	239	215	234	2875

Dr（歯科医師） D.H（歯科衛生士）

（平成25年度外来受診者数）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
	12	18	23	21	29	30	25	33	26	23	29	35	304

- ・今年度は、新築移転に伴い新しい医療機器を購入して頂き、より充実したケアを実施出来る様になった。
- ・歯科室も外来・リハビリ棟へと配置され、昨年度以上に外来受診者が急増した。
- ・千歳療護園においても医療機器を持参でき、今まで以上により一層充実した口腔ケアが施行できた。
- ・コアラ園は6月の「歯の衛生週間」に合わせて、口腔検診を実施することができた。

看護部看護課

《概況》

新築移転により、利用者様の生活空間の変化に伴い業務内容を変更し、より良い看護・介護を提供できるよう検討していく。医療ケアの必要な利用者様を短期入所・日中一時支援で受け入れ、在宅障害児者のニーズに応えられるようにする。

*委託入院 久留米大学病院 10件 聖マリア病院 4件
田主丸中央病院 3件

◆ 超重症児 5名 ◆ 準超重症児 4名
◆ 気管切開者 10名 ◆ 鼻腔カテーテル挿入者 13名
◆ 胃瘻チューブ挿入者 11名

*インフルエンザ予防接種 121名
インフルエンザA型罹患患者 1名
インフルエンザA型罹患患者(H1N1pdm) 1名
*短期入所者(延) 487名
*日中一時支援利用者(延) 381名

<実習生受入数>

介護実習 福岡医療秘書専門学校 2名
医学・看護学生 久留米大学医学部医学科 48名
久留米大学医学部看護学科 9名
昭和学園高等学校看護学科 51名
八女筑後看護専門学校 38名
体験研修 新採用県職員 9名
ボランティア 5名

① 平成25年度 在籍者数(月初日) 平成25年4月～平成26年3月

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
療養	95	95	95	95	95	95	95	95	95	95	95	96
医療	25	26	26	26	26	26	26	26	26	29	29	29

② 平成 25 年度入退園者状況

平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
措置入園	1								3			
退園												2
契約入園											1	2
退園												2

② 年齢別入所者数

平成 26 年 3 月 31 日現在

年齢	0～6	7～12	13～15	16～19	20～29	30～39	40 以上	合計
措置	2	6	3	2	0	0	0	13
契約	3	2	6	5	12	31	51	110

【なかよし寮】

- 8 月下旬から 9 月中旬にかけ、8 名が手足口病に罹患。また、MRSA 検出 2 名（耳漏、気切部分泌）あり個別に対応、感染症拡大予防のため、基本手技の厳守に努力した。
- 自傷・他傷行為での外傷アクシデントも、日々の見守り、職員間の連携、コミュニケーションの大切さを再認識し、職員間で共有した。
- 新築移転にて、利用者様の環境が大きく変化したが、原因不明での受傷などはなく過ごすことができた。
- 利用者様の状態が重症から軽症と様々であることから、各々のニーズに合ったサービス提供が出来るように、努めていかなければならない。

【おひさま寮】

- 久留米大学小児外科 Dr の定期的な来園を通して、平成 25 年度は胃瘻増設術を施行した利用者は 2 名であった。2 名共経口摂取者で、発熱などで摂取困難となり、栄養の確保ができなくなったことにより、胃瘻での管理が必要になった。食事摂取においては、利用者の加齢と共にリスクも高くなってきている。今後も、経口摂取のあり方を食事形態も含め、考えていかなければならない。
- 感染症においては、インフルエンザ罹患者が 3 名であった。
移転後、4 人部屋となり、空き部屋を個別対応として使用、迅速な対応が感染拡大防止につながったと思われる。また、MRSA 保菌者は除菌などを試みているが、陰性化は困難で、2 部屋になった。一処置一手袋、手洗いを励行している。
- 業務改善として、医療ケアが濃厚となり、年度末には人工呼吸器装着児が 1 名加わり、更なるユニット化を図っている。

【ともだち寮】

- 短期入所・日中一時預かりの利用者も医療ケアが多くなり、職員のスキルアップに努めている。
- 更衣時に四肢チェックを行い骨折などの早期発見、予防に努めることで、職員の意識向上につながっていると思われる。今年度骨折はなく、小さなうっ血でも報告し介助場面で注意喚起している。
- 利用者様の平均年齢が40歳になり、加齢に伴う体調不良もあって、泌尿器科、婦人科、耳鼻科、精神科など専門外来への受診が多くなっている。
- 手足口病に2名感染、症状消失までに期間を要したが、感染拡大することなく終息した。今後も手洗い、手指消毒の徹底を行っていく。

病類別入所者数

平成26年3月31日現在

病名		病名	
脳性麻痺	70	染色体異常	3
低酸素性虚血性脳症	1	脊髄破裂後遺症	2
副腎白質ジストロフィー	2	マーシャルスミス症候群	1
脳損傷後遺症	1	先天性眼球欠損症	1
頭蓋内出血後遺症	2	二分脊椎	1
化膿性髄膜炎後遺症	2	レット症候群	3
左瘧性麻痺	1	低酸素性脳症後状態	1
滑脳症	2	インフルエンザ脳炎後遺症	1
厚脳症	1	硬膜下出血後遺症	1
クラインフェルター症候群	1	頭蓋咽頭腫摘出術後状態	1
髄膜炎後遺症	1	猫鳴き症候群	1
ダウン症候群	2	乳幼児揺さぶられ症候群	1
右中頭蓋窩クモ膜胞	1	心肺停止蘇生後状態	1
麻疹脳炎後遺症	1	脳腫瘍手術後状態	1
脳炎後遺症	1	頭蓋骨早期頭蓋癒合	1
無酸素性脳症	2	先天性筋緊張ジストロフィー症	1
水頭症	3	超低出生体重児	1
精神発達障害	6	水頭無脳症	1

計123名

【出張関係】

◆ 平成 25 年度社会福祉施設役職員研修				
	5 月 8 日・16 日		准看護師	1 名
	10 日・21 日		看護師	1 名
◆ 平成 25 年度社会福祉施設役職員研修職場内指導者養成コース				
	6 月 5 日・12 日・18 日		看護師	1 名
◆ 福岡県身体障害者施設協議会 平成 25 年度施設長・職員研修会				
	6 月 13 日～14 日		介護福祉士	1 名
◆ 平成 25 年度九州沖縄地区重症児（者）施設経営研究会				
	7 月 4 日～ 5 日		看護師	2 名
◆ 介護福祉士実習指導者講習会				
	8 月 27 日～28 日 9 月 3 日～ 4 日		介護福祉士	1 名
◆ 平成 25 年度児童福祉施設新任職員研修会				
	9 月 10 日	看護師 3 名	介護福祉士	2 名
◆ 平成 25 年度全国重症心身障害児者施設職員研修「看護師コース」				
	9 月 11 日～13 日		看護師	1 名
◆ 第 32 回（平成 25 年度）九州身体障害者施設研究大会				
	9 月 12 日～13 日		看護師	1 名
◆ 第 39 回重症障害児（者）医療講習会				
	9 月 13 日～15 日		看護師	1 名
◆ 第 58 回西日本肢体不自由児施設運営研究会				
	9 月 12 日～13 日		看護師	1 名
◆ 第 33 回全民連中堅職員研修会				
	10 月 31 日～11 月 1 日		看護師	1 名
◆ 第 34 回日本重症心身障害福祉協会西日本協議会総会				
	11 月 28 日～29 日		看護師	1 名
◆ 平成 25 年度全国重症心身障害児者施設職員研修会「看護管理コース」				
	12 月 4 日～ 6 日		看護師	1 名
◆ 第 58 回重度・重症児（者）医療・療育（基礎）講習会				
	2 月 18 日～21 日		看護師	1 名
◆ 九州地区公益社団法人日本重症心身障害福祉協会認定 重症心身障害看護師研修会				
	7 月～3 月	月に 3 回	看護師	1 名

《概況》

今年度は移転にともない新しい環境の中で三寮とも、利用者様中心のサービスをモットーに個別支援計画のもと、利用者様一人一人のニーズに応えるべく園内外の活動や季節毎の行事、各種のレクリエーションへの取り組みを中心に事業を展開した。園外活動においては、昨年度より再開した一泊旅行をおひさま寮にて実施することができた。また、毎年実施していた法人全体での運動会にかわるものとして、各寮にて、それぞれ催し物をおこない、利用者様、保護者様に大好評をえた。

【なかよし寮】

今年度は移転により生活環境の変化がある中で、利用者様一人一人の処遇が低下しないように、活気ある毎日を送れることを目標として、個別支援計画に基づき、活気溢れる処遇を展開した。

学卒の方々の中には、身体的衰えが見えてこられた方も多くなり、活動内容を個々の対応に変化させ趣味活動・個別活動・月1～2回のバス外出などの内容を工夫してきた。

就学児に対しては、登校状況の変化で事故の無い様に、支援学校と連携しながら勉学の向上と、日常生活に必要な動作や精神的発達を促す取り組みを行ってきた。土曜日午後のドライブ外出を月に1～2回、3～4名で行ってきた。

2名の幼児活動は、保育士2名で週2回、情緒の安定や寮外散歩を中心に取り組んだ。

年度当初は移転後という事もあり、寮内の変化に利用者様・職員共に不安を感じていたが、徐々に慣れ充実した毎日を過ごせるようになってきた。

次年度は学卒者による一泊旅行の計画や、移転後2年目ということもあり、今年度以上に処遇の向上を目指した取り組みを行っていかねばと思っている。

(園外活動)

身障者体育大会	5/19	(日)	3名
ゆめタウン	6/6	(木)	2名
一洗庵	6/14	(金)	3名
ゆめタウン	6/28	(木)	2名
イオンモール筑紫野	7/1	(月)	2名
青少年科学館	8/7	(水)	3名
ゆめタウン	8/9	(金)	2名

体験学習	8/9 (金)	2名
午前ドライブ	8/16 (金)	2名
遊園地	8/22 (木)	3名
体験学習	8/23 (金)	2名
一洗庵	8/27 (火)	4名
ゆめタウン	9/27 (金)	2名
久留米児相交歓大会	10/16 (土)	3名
一洗庵	11/14 (木)	3名
一洗庵	11/21 (木)	3名
ミュージックフェスティバル		
	2/2 (日)	6名

(園内活動)

端午の節句	5/11 (木)	全員参加
七夕	7/6 (土)	全員参加
茶話会	7/19 (金)	学卒・幼児
調理実習	8/2 (金)	4名
調理実習	8/20 (火)	5名
おたのしみ会	8/30 (金)	全員参加
クリスマス会	12/25 (水)	全員参加
節分	2/1 (土)	全員参加
ひな祭り	3/1 (土)	全員参加
茶話会	3/19 (水)	学卒・幼児・卒業生
誕生会	第3水曜日	全員参加

(ボランティア・慰問)

アレンジ教室	毎週木曜日	希望者
生花教室	毎月第2火曜日	希望者
音楽教室	毎月第2金曜日	11名
理容ボランティア	1.5ヵ月毎	全員対象
K2 バンドコンサート	11/30 (土)	全員参加
日産ユースクラブ慰問	12/15 (日)	全員参加
ネイル	月曜日 (不定日)	希望者

【おひさま寮】

(生活援助)

学園内でも個人支援プランが定着し、利用者様一人一人のニーズが再認識される中、本当の意味での利用者本位の対応がもとめられ、その意識が高まってきているのが感じられる。現状を踏まえて考えていくとき、まずは個別活動の充実に視点を置き、処遇にあたっている。

重度の障害を持つおひさま寮の利用者様には、散歩・音楽活動、この2つを柱とし、日課の見直し、活動に対する人員の確保を重視し検討、実施中である。また、業務内容の見直し、効率化を図り、利用者様一人一人の情報を各部協力のもと、より多く集め周知、徹底されることで、最終的に、利用者様のサービスの向上に繋がるものと考えている。

また、長い視野におけるユニットへの取り組みも段階的に進めていく検討を行っている。

◎ 慰安・娯楽

(活動内容)

4月	花祭り	(全員参加)	ドライブ外出	(6名)
5月	端午の節句	(全員参加)	ドライブ外出	(6名)
6月	ドライブ外出	(8名)		
7月	七夕まつり	(全員参加)	盆踊り大会	(全員参加)
	ドライブ外出	(4名)		
8月	ドライブ外出	(4名)		
9月	ドライブ外出	(6名)		
10月	お楽しみ会	(全員参加)	ドライブ外出	(2名)
11月	ドライブ外出	(4名)		
12月	ドライブ外出	(4名)		
1月	ドライブ外出	(6名)		
2月	節分	(全員参加)	ドライブ外出	(4名)
3月	ひな祭り	(全員参加)	ドライブ外出	(4名)
	一泊旅行(超重症児者を除く参加希望者)			

その他主な活動

- ・毎月第3水曜日誕生会(全員参加)
- ・集団レクリエーション(週2回)
- ・幼児保育(週5回)
- ・理容(月1回程度)
- ・音楽活動(日常的に)

【ともだち寮】

(生活援助)

利用者様へのよりよいサービスと、自己決定及びその実現に向けた生活援助を心掛け、個別支援計画に基づき、充実した毎日を過ごせるように各種行事と活動を計画実施した。

園外活動では、継続的に行っているドライブ外出(土曜日の午後2時間程度)を、年間一人2回ずつ実施した。外出先は、利用者様の要望を取り入れ、買い物外出としても行った。(面会、外泊の少ない利用者様より)

更に希望外出では、ゆっくりとした長時間での園外活動(湯布院温泉・大型ショッピングセンターでの買い物・公園・相撲見学など)や他施設利用者様との交流の場でもある、久留米児童相談所管内交歓大会へ2名の利用者様が参加した。(内1名の方、交歓大会実行委員として委員会会議に出席)

又、福岡県身体障害者体育大会には、3名の利用者様がエントリー、出場した。

園内活動では、午前の10:00より50分間のグループ活動(毎週月・水・木・金)を行った。内容としては、今月の歌・散歩・短冊書き・リラックスタイム(自販機でのジュース飲み)・足湯・トランプゲーム・茶話会・クイズ・タッチケア・日光浴などを実施した。また、季節の行事、毎月の誕生会、お楽しみ夕食会を計画し、利用者様の生活が充実されたものになるように努めた。

趣味活動では、本人様が希望する個別活動を、日中での余暇時間、又夕食後18:15～19:15の時間帯を利用して遅出勤務者によりサポートした。

4月より新しい施設での生活が始まり、4人部屋ではあるものの、今までにはなかった居室での個人の空間(スペース)を趣味活動など、行いやすい環境に整え、パソコン・携帯電話などによるメール、ゲーム、音楽鑑賞、DVD視聴など充実した生活を送れるように提供した。

10月の運動会に代わる行事として、各寮でのレクリエーション会では、2部構成により午前に全員(利用者様、保護者様、職員)参加形式でのゲーム、又午後からは職員によるバンド演奏会を屋外で実施した。

(園外活動)

- | | | |
|-------------------------------|------------------------|-------|
| (1) ドライブ外出(土曜 PM) | [年間一人2回] | 各2名参加 |
| (2) 久留米児童相談所管内交歓大会(久留米自衛隊体育館) | | |
| | 10/26(土) | 2名参加 |
| (3) 湯布院温泉外出 | 6/27, 9/26, 10/29(計3回) | 10名参加 |
| (4) 身体障害者体育大会 | 5/19(日) | 3名参加 |
| (5) 公園外出 | 3/27(木) | 2名参加 |

- | | | |
|---------------|-------------------------------|-------|
| (6) 買い物外出 | 5/30, 8/20, 11/19, 2/25, 3/18 | 10名参加 |
| (7) 大相撲九州場所見学 | 11/ 7 (木) | 2名参加 |

(園内活動)

- | | | |
|-----------------|-----------------|--------|
| (1) 花祭り | 4/10 (水) | 全員参加 |
| (2) 端午の節句 | 5/ 8 (水) | 全員参加 |
| (3) 七夕 | 7/ 3 (水) | 全員参加 |
| (4) お楽しみ夕食会 | 9/25 (水) | 全員参加 |
| (5) クリスマス・プレゼント | 12/25 (水) | 全員参加 |
| (6) クリスマスお楽しみ会 | 12/26 (木) | 全員参加 |
| (7) 節分 | 2/ 5 (水) | 全員参加 |
| (8) 雛祭り | 3/ 5 (水) | 全員参加 |
| (9) 誕生会 | 毎月第三水曜日 | 全員参加 |
| (10) グループ活動 | 月, 火, 木, 金 (午前) | 4~6名参加 |
| (11) 全体レクリエーション | 毎週火曜日 | 全員参加 |
| (12) 生花教室 | 毎月第四火曜日 | 4名参加 |

(※生花教室メンバー12名~年間一人3回実施)

【実習生の受け入れ 3寮分】

- | | | | |
|-------------|-----|---------------|-----|
| ・精華女子短期大学 | 60名 | ・中村学園大学 | 5名 |
| ・西九州大学 | 11名 | ・中村学園大学短期大学部 | 5名 |
| ・西九州大学短期大学部 | 16名 | ・福岡こども短期大学 | 8名 |
| ・純真短期大学 | 5名 | ・久留米大学 | 11名 |
| ・西南学院大学 | 2名 | ・久留米信愛女学院短期大学 | 16名 |
| ・香蘭女子短期大学 | 48名 | ・九州大谷短期大学 | 10名 |
| ・福岡女子短期大学 | 4名 | ・筑紫女学園大学短期大学部 | 6名 |
| ・福岡女学院大学 | 4名 | | |

【出張関係】

第 51 回福岡県身体障害者体育大会引率役員連絡会議

クローバープラザ (福岡県春日市) 指導員 1 名

平成 25 年度社会福祉施設役職員研修 職場内研修指導者養成コース

クローバープラザ (福岡県春日市) 指導員 1 名

平成 25 年度社会福祉施設役職員研修 新任職員研修

クローバープラザ (福岡県春日市) 指導員 1 名

福岡県身体障害者施設協議会		
平成 25 年度第 1 回施設長・職員研修会		
のがみプレジデントホテル（福岡県飯塚市）		指導員 2 名
平成 25 年度児童福祉施設新任職員研修会		
久留米児童相談所（福岡県久留米市）		指導員 1 名
平成 25 年度第 32 回九州身体障害児者施設研究大会		
宮崎観光ホテル（宮崎県宮崎市）		指導員 1 名
第 58 回西日本肢体不自由児施設運営研究会		
島根県民会館・松江東急イン（島根県松江市）	指導員 1 名・保育士 1 名	
平成 25 年度第 33 回全民連中堅職員研修会		
小倉リーセントホテル（福岡県北九州市）		指導員 1 名
平成 25 年度リスクマネジメント研修		
クローバープラザ（福岡県春日市）		指導員 1 名
平成 25 年度広報講習会		
天神ビル（福岡県福岡市）		指導員 1 名
平成 25 年度全国重症心身障害児施設職員研修会		
「保育士・児童指導員等コース」		
山西福祉記念会館（大阪府大阪市）		保育士 1 名
社会福祉施設防災セミナー		
福岡国際会議場（福岡県福岡市）		指導員 1 名
福岡県身体障害者施設協議会		
平成 25 年度第 2 回施設長・職員研修会		
JR 博多シティ（福岡県福岡市）		指導員 2 名

心理療育部

〈概況〉

平成 25 年度は心理療育部、相談援助課として、一般生活援助業務との一部兼務で心理的援助活動を業務指針に基づき展開した。主な内容は、利用者様の日常生活の観察、触れ合い並びに治療・検査場面を通じて心理的関係性をつくることである。また重症児・者に対しては、他領域との連携のもと心理的側面から、適正ポジショニング活動やタッチケア、「いい表情づくり」活動などを通じ、個としての尊重を基本として業務を行った。また 6 月より新たに音楽療法士の業務展開を模索してきた。

地域支援としては、子どもの発達や母親の子育てなどの心理相談の要請に対し、

市町村と連携・協力しながら相談支援・発達支援を実施した。それに伴い、外来診察及びコアラ園利用案内さらに直接的心理相談や外来での心理療育につなげるケースも増加した。

《心理療育・相談援助の内容》

「落ち着いているか」「安心しているか」を治療の基点として「人と関われるか」「関わりは適当か」更に「楽しんでるか」「喜んでいるか」との相互機能関係により個々のニーズに応じ、絵画表現療法、箱庭療法、抱っこ法・タッチケア、遊戯療法・行動療法、カウンセリング、感覚統合法、知育活動、音楽療法などを施行した。心理的関わりの中で、寄りかけられる存在として、日常の触れ合い、遊び、介護、その他を通じての信頼関係作りが主要テーマである。

地域における相談活動では、母子並行面接を基本として、限られた時間の中でいかに信頼関係を作り、悩み・心配・不安に寄り添い共感的援助をしていけるかを目標に、判定並びに相談支援を行った。

【なかよし寮】

- ① 遊びを媒介とした自己表現（投影・情緒解放）
- ② 発達援助＝知育活動（情緒安定を基盤とした認知学習）・感覚運動
- ③ 面談援助 解決→解消（うなずく・聴く・心の汲み取り・共感・発散・個としての尊重）
- ④ 困った行動（表現として捉える）癖・攻撃・熱発・下痢・身体表現等の理解
- ⑤ 音楽活動
- ⑥ 散歩（寮内・園内・園外）
- ⑦ タッチケア・マッサージ
- ⑧ 知能検査・発達検査
- ⑨ 自由訪室

【おひさま寮・ともだち寮】

- ① 多動・興奮行動への対応 散歩法 ―エネルギーの解放―
- ② 腹臥位を基点としたポジショニング（活動協働）
- ③ 面談（心のエントツそうじ・表出能力に応じた受けとめ）
- ④ 音楽療法
- ⑤ 介護支援
- ⑥ タッチケア、絵本、絵カード、語りかけなど「いい表情づくり」活動
「集団の中での個としての尊重」

⑦ 知能検査・発達検査

【児童発達支援センター コアラ園】

- ① 発達支援（個別・集団）
- ② 遊戯療法（感情表現・認知発達・感覚調整）
- ③ 母親等へのカウンセリング（子どもの理解～プラス面へのスポットライト）
- ④ 行事（計画立案・実施）
- ⑤ 就学・就園（保育園等）相談援助
- ⑥ 知能検査・発達検査

【千歳療護園】

- ① 面談活動（カタルシス）
- ② 散歩療法（発散・リフレッシュ）
- ③ 表現療法（遊び活動・自己表現・生きがい・興味拡大・信頼関係）
- ④ ポジショニング（リラクゼーション・慢性痛の軽減・QOLの拡大等）
- ⑤ 前頭前野活性化法（読み聞かせ・公文カード・ドリル等）
- ⑥ 介護全般
- ⑦ メンタルヘルス（外出・カウンセリング）
- ⑧ 環境調整、その他

【耳納学園】

自己決定やプライバシーの尊重という立場にあり、基本的に業務展開はないが、心理的側面よりの評価・分析の必要性から、耳納学園の依頼により実施した。

《治療対象児・者》

日常の行動観察、生育歴、身体障害の程度、家庭環境などから、精神的サポートの必要性と質に応じて、下記人数に対し、定期的あるいは不定期的に行った。心理的対応の特殊性から、臨時・緊急の場合も多く、他職種との連携をもとに対応を行った。

※短期利用児・者を含む 単位：名

	なかよし	おひさま	ともだち	コアラ	耳納	千歳	合計
治療対象児・者 ※	50	36	41	60	1	83	271

《音楽療法対象児・者》

入所においては表出能力に困難のある利用者を優先的に、必要性に応じて表記人

数に対して行った。コアラ園・外来においては、医師の指示または保護者からの要望に応じて対応を行った。

単位：名

	なかよし	おひさま	ともだち	コアラ	外 来	合 計
音楽療法対象児・者	15	14	14	1	1	45

《心理検査》

知能検査と発達検査は定期的に行い、その他の検査、評価は必要に応じて行った。実施数は下記の通りである。

単位：名

	なかよし	おひさま	ともだち	コアラ	千 歳	耳納	外来・地域
発達検査	12	6	1	3	0	0	31
知能検査	12	0	3	14	5	1	96
性格検査	1	0	0	0	0	0	0

《地域支援》

地域支援事業は市町村の母子保健活動と連携して展開してきたが、保育所での療育・保育的側面からの心理判定、相談等にも対応した。今後も地域の信頼に適確に応えていく事業展開を目指したい。

また昨年度、三潁・城島において乳幼児健診後フォローの場として自主事業にて行った発達支援わくわく教室は、親子のびのび教室として久留米市の事業に統合され、新たな開催場所として久留米市南部も加わっている。

朝倉市	1歳6ヵ月児健診	計 12回	対象者 433名	うち 相談者 57名	
	3歳児健診	計 12回	対象者 371名	うち 相談者 48名	
	朝倉・杷木健診	計 6回	対象者 138名	うち 相談者 19名	
	にこにこ子ども相談	計 6回	相談者 19名		
	療育支援わいわい学級	計 23回	参加児 述べ 161名		
うきは市	1歳6ヵ月児健診	計 6回	対象者 234名	うち 相談者 14名	
	3歳児健診	計 6回	対象者 258名	うち 相談者 26名	
	すくすく発達相談	計 6回	8名		
	療育指導教室	計 33回	参加児 延べ 149名		
北筑後 保健福祉 環境事務所	乳幼児発達診査事業		計 3回	6名	
	にこにこリトルオープンルーム		計 3回	11名	
久留米市	田 主 丸 町	1歳6ヵ月児健診	計 4回	対象者 81名	うち相談者 14名
		3歳児健診	計 4回	対象者 108名	うち相談者 25名
		ママパパ気持ち楽々相談	計 1回	相談者 2名	
	北 野 町	1歳6ヵ月児健診	計 4回	対象者 106名	うち相談者 18名
		3歳児健診	計 4回	対象者 94名	うち相談者 19名
		ママパパ気持ち楽々相談	計 3回	相談者 8名	
	三 瀧 町	1歳6ヵ月児健診	計 4回	対象者 111名	うち相談者 19名
		3歳児健診	計 4回	対象者 108名	うち相談者 21名
		ママパパ気持ち楽々相談	計 3回	相談者 4名	
	城 島 町	1歳6ヵ月児健診	計 3回	対象者 87名	うち相談者 14名
		3歳児健診	計 3回	対象者 80名	うち相談者 21名
		ママパパ気持ち楽々相談	計 2回	相談者 2名	
	低出生体重児支援教室リトルにこにこ			計 3回	参加児述べ 21名
	親子のびのび教室(本庁/三瀧/城島/南部)			計 24回	参加児述べ 143名
東部地区子育て相談			計 24回	相談者述べ 70名	
その他の相談対応(電話・メール・来所・訪問)			計 88回		
コアラ園見学案内	12名	コアラ園心理療育	253回		
外来利用児総数	34名	外来心理療育回数	492回		
情報提供書作成数	54件	診察案内	38名		

【出張関係】

- ・福岡県相談支援従事者初任者研修
9月12～13日、10月18日、11月19～20日
- ・福岡県児童発達支援管理責任者研修
10月29日、2月25～26日
- ・児童福祉施設新任職員研修会
9月10日
- ・社会福祉施設役職員研修：新任職員研修
5月8日、5月16日

《概況》

医療療育部門における訓練は、すべて医師の処方に基づき個別で実施し診療報酬は脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）で算定請求した。

入所部門において5月、8月、9月、12月、3月、リハビリテーション総合実施計画書を作成した。計画書の説明や交付手順は郵送形式とし、返信用ハガキで同意の返事があった分について、リハビリテーション総合計画評価料を算定した。また、個別支援計画に関する説明の必要性から面談の機会を設けたが、3 寮全て利用がなかった。

コアラ・外来部門は、土曜日の利用者様など診察の機会そのものが取れない方もいるため、リハビリテーション総合実施計画書の説明をセラピストが行い、その内容を主治医に確認していただき交付した。

毎月第2火曜日に医師、看護師、保育士、心理士、栄養士および訓練部（PT・OT・ST）のスタッフが出席してリハビリテーションカンファレンスを開いている。感染症の影響で年間8回であったが、個別支援計画書の見直しとアセスメントシートの作成などについて協議した。新しい個別支援計画書を作成したため、アセスメントシートも新たに作成した。

訓練は、利用者様の潜在能力や可能性ならびにモチベーションなど多方面から対象児（者）のニーズを見極め、個別に計画を立てて行なうものである。特に、乳幼児期を担当するスタッフは成長や発達全体を深く理解し、幅広く支援する能力が必要である。そこで、児童発達支援センター契約者に対しては発達全体の手助けを目的にPT、OTを区別せず『からだの訓練』、STを『ことばの訓練』として対応した。

今年度より新しい施設に移転し、新たに空中懸垂装置を導入したことによりブランコなどを設置し感覚訓練がより身近になり、利用者のリラクゼーションや非日常的な感覚の提供が行えた。また、関節の拘縮や変形、異常筋緊張、呼吸問題など生活全般に問題を抱えている重度の障がい児（者）に対しては、独自の姿勢保持具を作製し活用するとともに、他部署の職員に対しても姿勢管理や移動・移乗・食事介助などの方法について、イニシアチブを取りアプローチすることで利用者様のQOLの向上につなげた。さらに摂食・嚥下機能に問題のある利用者様に対しては、嚥下食導入に向けた意識を他部署とともに高めているところである。

各部門の報告は以下に示す。

<理学療法>

【なかよし寮】

対象 46 名に対し、理学療法士 3 名で個別に実施し、利用者 1 名当たりの訓練回数は週 1～3 回、年間訓練実施単位数は 8,364 単位であった。

対象児（者）を疾患別にみると脳性麻痺が最も多く、その他は脊椎破裂後遺症、レット症候群、頭部外傷後遺症、筋ジストロフィー、マーシャルスミス症候群、精神運動遅滞などであり、他の疾患と重複する例が多い。

訓練内容は、様々な疾患を有する利用者様に対して、個々のニーズやレベルに合わせた目標を設定し、QOL の向上のために基本動作訓練、移動能力訓練、筋力増強・持久力訓練、ROM 訓練、ADL（日常生活動作）訓練などの運動療法を実施した。移転もあり、生活環境が大きく変わったことで利用者様の戸惑いや行動・動作の制限もあったが、生活環境を想定した訓練や環境の設定によって生活・移動範囲を広げ、興味・関心の拡大も図った。情緒不安定からくる筋緊張の亢進や自傷行為などを防止するために、訓練以外においても利用者様とコミュニケーションをとり、精神面のフォローや訓練時間外にも寮外での活動を促進することで利用者のモチベーションの向上を図った。また、自主的な訓練を取り入れることで、持久力の維持および向上や体重のコントロールにつなげることができている。今後も寮外への自由な出入りができるように検討していく予定である。

学童児に対しては卒園後を想定した訓練（ADL 訓練・買い物外出・園外活動）を提供することで、社会参加・自立に向けて意識を高め、卒園後の生活に順応できやすいように努めた。買い物外出など園外活動を実施したことで、少しずつではあるが、利用者様の社会参加に適応する変化がみられており、今年度の退園者に対して大きく影響した活動であったと考えられる。また、特別支援学校の先生方や他職種のスタッフに対して、卒園に向けての活動や日中活動の姿勢などについて情報を提供し、QOL の向上を心掛けた。

【おひさま寮】

対象 36 名に対し理学療法士 2 名で実施。年間訓練実施単位数は 6,105 単位であった。

対象児（者）は、重度の運動機能障がいおよび重度の知的障がいを重複している人が多く、加齢に伴う身体機能面の低下や筋緊張の亢進など様々な原因により非対称姿勢をとることが多く、変形・拘縮の要因となっている。また、人工呼吸器での呼吸管理の方もおられ、日常生活は全介助を必要とする。

訓練内容は、ROMex を中心にマッサージ、リラクゼーション、ポジショニング、現在の機能の維持および基本動作の維持・向上、排痰や呼吸介助（スクイーピング）

などの理学療法を行った。また毎年 1 回、個人の身体機能面の評価として ROM・側彎などの計測を OT と共に実施し、数値的な変化を年単位で追っていき変形・拘縮の予防および、機能の維持・向上への取り組みを継続して実施している。

利用者様 36 名全員を対象に、姿勢ケアや摂食訓練を OT・ST と協力し実施した。姿勢ケアについては、クッションにて個々にあったプロンキーパー・頭部保持クッションや側臥位保持用クッションを作製し、リラクセーション・排痰・側彎の進行予防に努めた。また、学童児の運動機能や認知機能面の向上を目的に、OT・特別支援学校の担任教諭と情報交換を行った。それにより、学園および学校にて一貫した方針で個人へのアプローチを実施し、運動・認知面の向上に努めた。

他職種への働きかけとして、病棟異動および新任の職員に対し姿勢ケアの重要性の勉強会を継続して行うと共に、利用者様一人ひとりの姿勢ケアの再確認を行い QOL の向上を心掛けた。

【ともだち寮】

対象 41 名に対し理学療法士 2 名で行い、年間訓練実施単位数は 6,321 単位であった。今年度に於いては感染症が拡大することなく、各利用者様とも定期的に訓練を実施することができた。

利用者様の疾病状況は脳性麻痺（および関連疾病の重複障がい者含む）80%、その他、化膿性髄膜炎後遺症、脳損症後遺症、脳炎後遺症、視力障がい 20%となっている。

壮年期・中年期の利用者様が多く、年々、四肢の関節可動域や筋量、活動量などは減少傾向を示している。また、寮生活において姿勢のバリエーションも少なく、変形の増悪や関節拘縮・褥瘡を引き起こしやすい状態にある。さらに、自発的な運動の欠如による体重増加や循環障がいによる四肢の浮腫などもみられるようになっている。

そのためリハビリテーションの内容は四肢の関節可動域運動やポジショニングによるリラクセーション、移動・歩行練習を行なった。

OT・ST と連携して週 1 回小グループでの活動を行い、歩行能力が高い利用者様は屋外での歩行訓練を中心に歩行能力の維持・体力増進を図った。また自発的な運動や意思表示が少ない利用者様にはスヌーズレンルームなどの場所で感覚刺激を中心とした活動を行い色々な表情や反応を引き出せるように心掛けた。また、姿勢ケアの必要な利用者様には、身体機能に合うクッションを作製し、多種多様な姿勢を提供し、日中の姿勢管理に努めた。

今年度はともだち寮の利用者様の中から 3 名の方に身体障害者スポーツ大会に参加して頂いた。大会に参加することで明確な目標を持ち、訓練にも意欲的に取り組

むことが出来ており楽しみの一つになっていたようである。

<作業療法>

【なかよし寮】

対象 43 名に対し、作業療法士 4 名が週 1～3 回個別で行い、年間訓練実施単位数は 6,448 単位であった。

対象児（者）の疾患は、脳性麻痺など中枢性運動障がいを中心となっているが、病棟編成もあり重度の運動機能障がいおよび重度の知的障がいを重複している人も含め、精神運動遅滞、ダウン症候群、広汎性発達障がいなどである。

現在、高等部卒業に伴い他施設へ移行される利用者様が増え、センターに入所されている学童児の比率が以前に比べ減少してきている。

訓練内容は、身体機能面（上肢機能）の向上および維持を目的に、ROMex やリラクセーション、玩具や感覚遊び、作業活動を媒介としたアプローチを行った。また、身の回りの動作の向上や獲得を目指し、直接的かつ反復した練習や環境調整を行った。

学卒者に対しては、余暇活動の一つとして週 3 回の集団活動（火曜日：紙すき 水曜日：3 寮合同 金曜日：自由活動、音楽療法）を取り入れた。集団活動で作った紙すきのハガキは、関わった利用者様の保護者や兄弟に暑中見舞いや年賀状として送った。また新築移転後、掲示板ができたことで、全員で作った作品（貼り絵やフィンガーペインティングなど）を展示することや、集団で行った活動を写真で披露する場を設けることができるようになった。その他、自由活動で製作した作品を、耳納学園の展示即売会（於：ゆめタウン）の中で販売してもらい、活動意欲の向上や達成感につなげることができた。3 寮合同のグループ活動では、それぞれ特徴的な障がいがあるにも関わらずゲームや感覚遊びなどを行い、楽しみを共有・共感できる場として活用した。また、音楽療法士と言語療法士と共に音楽が好きな利用者様を対象に音楽療法を行った。

学童児に対しても、今年から PT・ST と協力しながら集団活動を実施した。対象者は、小学部から中学部の利用者様で、同年代の相互交流を促し集団行動でのマナーやルールを守るなどのソーシャルスキルの向上を目的に行った。集団の中でも、役割（名前呼び、日付など）を決めたことで、自己表現の場やより集団への意欲を高めることができた。

その他、高等部の利用者様に対しては、自立支援を目的に園外活動（買い物）を取り入れ、社会経験を積む活動を行った。

【おひさま寮】

対象 36 名に対し、作業療法士 3 名が週 1～3 回個別で実施し、年間訓練実施単位数は 6,728 単位であった。今年度は 3 名中 2 名が児童発達支援センターと地域支援事業の兼任となり実施したが、1 名の増員もあり、昨年度と比べ単位数が増加している。

対象児(者)は、重度の運動機能障がいや重度の知的障がいを重複した人が多く、視力障がいや嚥下障がい、加齢にともなう身体機能の低下や変形・拘縮など、それぞれ多岐多様な問題を抱えており、症状も重度化している。

訓練内容としては、身体機能の維持、ADL の改善、精神面の安定を目的に関節可動域訓練、ADL 訓練(食事動作)、集団活動、感覚訓練(トランポリン、スイング)などを行った。また、姿勢ケアについては、クッションを使用した姿勢管理(排痰、側弯進行予防)や座位保持装置を作製し、リラックスできる生活環境作りを行った。

集団活動では、他寮の利用者様との交流や楽しみの共有を目的に、3 寮合同のグループ活動を実施し、制作活動(フィンガーペイント、キャンドル作りなど)やゲーム、感覚遊び、足湯を利用した足浴など、様々な活動を実施した。利用者様同士の交流や楽しい雰囲気を楽しむことで病棟では見られない利用者様の表情や反応を見ることができた。グループ活動で作成した作品の一部は、耳納学園の展示即売会に飾らせていただき、地域の方々に見ていただいた。

【ともだち寮】

対象 42 名に対し、作業療法士 2 人で週 1～3 回実施し、年間訓練実施単位数は 6,595 単位であった。対象者の疾患は、脳性麻痺や水頭症、化膿性髄膜炎後遺症などの中枢神経系の異常による運動障がいおよび知的障がい、染色体異常などであった。年々、加齢に伴う身体機能の低下や変形・拘縮も見られ始めている。

訓練内容としては、身体機能や ADL、認知機能の維持および向上、情緒の安定やリラクゼーションを目的に行なった。その手段として ROMex や ADLex(食事、更衣、整容)、感覚遊び、制作活動、集団活動などを用いた。

今年度は新築移転したことで空中懸垂設備を導入することができ、病棟内の多目的ルームにブランコなどを設置した。それによって感覚訓練がより身近になり、利用者様のリラクゼーションや非日常的な感覚の提供、また訓練場面以外でも利用者様の気分転換の場所として使用されている。

また 4 人部屋となり、病棟内に利用者様固有のスペースができたことに伴い、部屋の環境設定も行ってきた。具体的にはパソコンを操作する際のテーブルの高さ調節やスイッチの設定、ナースコールを自分で押すことができるような固定台の設置などを行い、余暇時間における活動の充実やストレスの軽減に繋がっている。

集団活動としては例年通り①他寮の利用者様と合同の集団活動と②PT・STと合同のともだち寮利用者様5名の小集団での活動を行った。①では各人が役割を持ち、集団に対して働き掛ける場面を持つことを目的としながら制作活動や感覚遊び、歌やゲームを行ってきた。②ではさらに共通のニーズを持つ利用者様を5名ずつ、2グループで行った。歩行可能な利用者様のグループでは屋外での歩行を主として、月に1度学園車を利用して公園などに出かけた。車を利用することで揺れや振動、視覚的な変化や加速度を感じることができた。それに加え普段とは違う場所での歩行で、光や風を感じるとともに地域の方と同じ場を共有でき社会交流の場にもなった。もう一つのグループは日常生活の中で物や人への働きかけや刺激に対する表情の変化、人との関わりが少ない利用者様を対象に、感覚遊びを主に個々の興味の探索や楽しみの共有を行った。覚醒が低下しやすい利用者様でも同じ空間で他者と過ごすことで周囲を見渡し、リラックスしながら感覚を楽しんでいる様子が見られた。

<言語聴覚療法>

【なかよし寮】

対象44名に対し、担当者3名で週1～5回実施した。今年度も地域支援事業、児童発達支援センターと兼任し、年間訓練実施単位数は6,159単位であった。

対象児(者)の疾患は、脳性麻痺などの中枢性運動障がいを中心となっているが、精神運動遅滞、ダウン症候群、広汎性発達障がい、先天性緊張性ジストロフィーなどであった。

重度の知的発達の遅れが見られる利用者様に対しては、主にスキンシップ、歌遊び、音遊び、楽器遊び、絵本の読み聞かせなど、楽しくリラックスできる雰囲気の中で、聴覚、視覚、触覚などのさまざまな感覚を用いた関わりを行い、感覚・認知・理解面・表現力(表現方法)の発達を促した。また、音楽療法士、作業療法士とともに音楽療法を実施した。

言語発達の遅れが見られる利用者様に対しては、絵本、ままごと、歌遊び、お絵かき、絵カードやかな文字などを介した遊びや学習の中で言葉の成長を促した。

音声言語によるコミュニケーションが困難な利用者様に対しては、コミュニケーションボードなどの代替手段の工夫やTEACCHや絵カード交換式コミュニケーションシステム(PECS)を用いた視覚支援、手話の学習、その他を行い非言語的コミュニケーション手段の確立も目指した。

麻痺による発声発語障がいや摂食・嚥下障がいが見られる利用者様に対しては、アイスマッサージやバンゲード法などの筋刺激訓練、リラクゼーション、発声発語器官訓練、構音訓練、摂食・嚥下訓練などを行った。食事場面では、利用者様に応じてPTやOTと相談し、姿勢(車椅子を含めた)や上肢機能の側面から自助具の使

用、食形態の検討も行い、成長期にある経鼻経管栄養の利用者様に対しては、段階的な経口摂取の練習も行った。また、寮内における摂食・嚥下委員会を発足し、利用者様の摂食・嚥下評価や病棟スタッフの摂食・嚥下に対する意識の向上に努めた。

【おひさま寮】

対象者 28 名に対し言語聴覚士 2 名で週 1～5 回個別に実施し、年間訓練実施単位数は 3,617 単位であった。

対象の病名・障がい名としては、脳性麻痺、精神(発達)遅滞などを中心とした身体障がいと知的障がいを併せ持つ重度の重複障がいである。

訓練内容は、口腔機能訓練（口腔とその周辺のケアや活性化を含む）、摂食・嚥下訓練、発声発語器官に対しての筋刺激訓練やマッサージ、ストレッチ、リラクゼーション、構音訓練、言語発達を促す訓練、コミュニケーション訓練、音声や音楽を用いた聴覚刺激訓練などを行った。

摂食に関しては、摂食・嚥下に関する器官に対しての筋刺激訓練、マッサージ、ストレッチ、脱感作や味覚学習などの口腔内感覚の改善、間接嚥下訓練といった間接訓練と、摂食・嚥下機能そのものの維持・改善訓練、介助法の改善、食形態の調整、頸部や体幹の座位姿勢の調整、姿勢を安定させ筋緊張を緩和するためのクッションの調整、食べ物に対する心理的拒否に対して安心して食べられるためのアプローチ、などを行った。

これらを通じて摂食・嚥下機能の維持・向上や、安心して、快適に、スムーズに食事ができるための支援を行った。

おひさま寮の最重度の心身障がい児（者）に対して、リラックスした楽しいかわりの中で、心地のよい聴覚的・視覚的・身体的刺激などを充足させるアプローチを通して、心身が心地よく満たされる訓練を行い、また感覚・認知・理解面の成長も促した。

今年度も iPad などの機器を用いて、重度心身障がい児・者でも楽しめ使用可能な機能を使って効果的に発達を促したり生活を充実させたりした。

呼吸器系障がいに対しては、排痰、口腔内清掃や口腔内機能の活性化により、呼吸器やその関連する器官の環境を整え、できる限り不快な状態を改善して、穏やかに生活できるよう支援を行った。

【ともだち寮】

対象 28 名に対し言語聴覚士 1 名で、個別訓練を毎回 1～3 単位、週 1～2 回実施した。年間訓練実施単位数は 2,926 単位であった。

対象者は脳性まひ、MR、てんかんなど症状は様々で、年齢も 10 代から 60 代と広い年齢層でのアプローチを行った。

移転に伴い、利用者様の生活環境が大部屋から個々の空間を持てる 4 人部屋へと移行した。それに伴い多くのともだち寮利用者様が意思表出手段の確立を希望された。そこで歩くことや話すことが難しい利用者様専用のパソコンや専用スイッチの使用を検討した。iPad やスイッチを使って自分で機器を操作し主体的に活動をする取り組みを行った。自分自身の身体動作でスイッチを押し、普段は他者に介助してもらっている写真撮影や音楽鑑賞を自分自身で行っていただいた。

摂食・嚥下訓練においては口腔ケアや咀嚼訓練、食形態の調整を行った。また、スムーズな自力摂取動作も摂食・嚥下機能に間接的ではあるが関わると考え、使用する食器具の検討も行った。また胃ろうの利用者様へは口腔機能の維持として、口腔ケアやマッサージを通して口腔器官への刺激入力を行った。

音声言語面の訓練としては会話や発声、歌を歌うことによる発声発語器官の運動による訓練を行った。

『コアラ園及び外来』

<からだの訓練>

対象 153 名（契約利用者 51 名、外来利用者 102 名）に対し、理学療法士 1 名、作業療法士 2 名を中心に実施し、利用者様 1 名当たりの訓練回数は週 1～2 回、年間訓練実施単位数は 8,228 単位であった。

対象児（者）は脳性麻痺、神経筋疾患、整形外科的疾患、さらに精神運動発達遅滞など多岐にわたっているが、ここ数年の傾向として、広汎性発達障がいを中心とする発達障がい分野での発達支援を必要とする利用者様が増えており、重度の運動機能障がい、知的障がいを有する症状に加え、前述の発達障がい分野に至るまでの幅広い対応が必要となっている状況である。

訓練としては、あそびを中心とした運動活動や作業活動を通じて、こどもの発達課題（運動面・日常生活技能・学習基礎能力）や、現在から将来にわたる生活面に着目・考慮し、運動機能障がいに対しては、ROM 訓練、リラクゼーションから基本動作、移動・移乗動作、さらに補装具の作製、福祉機器の活用や提案などに至るまで個々の必要性に応じた取り組みを実施した。

また、日常生活で配慮すべき点や介助方法などはもちろんのこと、保護者に対しては我々スタッフも理解者としての立場を大切にしながら話を聞き、助言・アドバ

イスを行ってきた。訓練場面以外でも日常生活で主となる保育園・幼稚園・学校の先生方との情報交換・共有を行ないお互いの療育に活かせるように努めた。さらに小学校就学を控え、通園部門を卒園される児童の進路に関わる各関係機関に情報提供を行い、卒園後の支援についての提案や意見交換にも取り組んだ。

<ことばの訓練>

対象 138 名(契約利用者 45 名、外来利用者 93 名)に対し、週 1~2 回、1 回 2 単位(40 分)を基本として、言語聴覚士 3 名を中心に訓練を実施した。年間訓練実施単位数は 6,569 単位であった。

対象児(者)は、発達障がい(ダウン症候群、広汎性発達障がい、注意欠陥・多動障がい、学習障がい)、言語発達遅滞、構音障がい、脳性麻痺、摂食・嚥下障がい、難聴、吃音と多岐に渡り、年齢も 2 歳の幼児から成人までと幅広い。近年は特に自閉症スペクトラムを主とする利用者様が増加傾向にある。

訓練において、観察や情報収集、各種検査結果をもとに評価し、訓練プログラムを立案、実施した。また保護者だけでなく、保育園・幼稚園・学校の先生方とも情報交換を行い、療育に活かせるように努めた。

訓練内容は、利用者様一人ひとりの状態に応じて、机上課題や、遊びを中心とした課題などを選択し、言語面・コミュニケーション面の能力向上を目標に施行した。また、訓練場面だけでなく、対象児(者)への接し方や、問題とされる行動が見られる理由、構音訓練の宿題、食事形態の検討、保護者の想いを受け止めるなど、日常生活場面においても、対象児(者)の成長につながるよう努めた。また、聴覚スクリーニング検査や、他医療機関との連携にも積極的に取り組んだ。

◎ 地域支援事業等

1. 肢体不自由児早期訓練事業(県肢体不自由児協会委託、飯塚市)
医師 1 名・・・ 2 回 PT、OT 各 1 名・・・22 回 ST 1 名・・・12 回
2. 子どもの療育相談(上陽町)
OT 1 名・・・15 回
3. 朝倉市乳幼児発達診査(朝倉市環境福祉事務所委託、朝倉市)
ST 1 名・・・ 7 回

◎ 実習生の受入状況

【理学療法士】

平成 25 年 6 月 10 日	～ 8 月 2 日	西九州大学リハビリテーション学部	1 名
7 月 22 日	～ 9 月 14 日	柳川リハビリテーション学院	2 名

【作業療法士】

平成 25 年 7 月 22 日	～ 9 月 21 日	福岡国際医療福祉学院	1 名
平成 25 年 7 月 29 日	～ 10 月 12 日	麻生リハビリテーション大学校	1 名
平成 25 年 8 月 5 日	～ 10 月 12 日	麻生リハビリテーション大学校	1 名

【言語聴覚士】

なし

地域事業部

《概況》

地域事業部は地域の多様なニーズに対し、法人内全事業所機能の紹介並びに利用までの手続き、また事業所間の連携や調整を図る目的で機能してきた。

地域からの相談や問い合わせの内容は、入所や短期入所、日中一時預かりなどの支援と、外来リハや児童発達支援センター通所につながる療育支援、それらに付随する送迎支援や見学依頼が殆どである。

対象地域は、久留米市、うきは市、朝倉市及びその近隣地域としているが、対象地域以外からの問い合わせも多数あり、社会資源不足の現実を感じている。

地域に出向き実施する在宅児支援は既に各部署が取り組んでいるが、主に地域事業部が担う久留米市立屏水中学校におけるタイムケア事業は、3 年目を迎え、より充実した内容で取り組めた。また、久留米市、うきは市、朝倉市における乳幼児健診後のフォロー教室等も順調に取り組んでいる。

地域事業部の 25 年度事業報告は以下の通りである。

＜相談支援事業＞

地域事業部が受け付けた相談や問い合わせは次の表の通りで、大半はご本人様(ご家族)からで、その他は相談支援事業所や行政、医療機関のソーシャルワーカーからであった。

問い合わせの内容	問い合わせ件数
① 入所利用について	29 件
② 短期入所・日中一時支援について	45 件
③ 通所利用や放課後デイ利用について	17 件
④ 外来療育・リハの利用について	20 件
⑤ その他の相談	11 件
⑥ 上記の相談に付随した送迎や見学依頼	37 件

①については、29件の問い合わせに対して法人全体で6名の入所につながっている。施設入所に関する問い合わせは、その大多数が療養介護に該当する超重症の方や介護保険適応クラスの高齢の方であり、入所を強く希望されても待機者リストにあげるにとどまっている現状である。

②についての問い合わせが最も多く、その殆どが診察、契約まで進み利用者数は昨年に比べ大きく飛躍した。しかし、要呼吸管理の方など重症児（者）に対する短期入所の実施がすべての方に対応出来ず課題である。

③のコアラ園通所について、利用を希望された方はすべて契約までつなげ、利用児数は増加しているものの、1日の定員20名には未だ達していない。放課後デイは、通常のコアラ園終了後の15時以降は実施できているものの、希望の多い長期休み中のデイサービスが実施できていない。

④の外来療育・リハは、言語療法の希望が多く対応が遅れている部分はあるが、診察を経てリハ指示の出た分はすべて療育・リハにつなげている。

⑥の見学依頼については、11月から2月の期間一部制限したものの、期日変更などをお願いし、すべて対応した。短期入所や日中一時支援に付随した送迎は、以前から多くの希望が寄せられていたものの対応がとれていなかった。そのため、今年度は関係部署と連携を取りあい、26年2月より予約制でゆかり学園と田主丸特別支援学校間の送迎を実施するようにした。

<予約調整業務>

上記の相談受付から実際に診察や利用につながったケースについては、外来や関係部署と連携をとりながら診察予約及び見学・説明等を行い、利用者様にとって安心でスムーズな利用開始を心掛けた。

<在宅支援業務>

地域事業部スタッフを派遣した在宅児・者支援は次の通りであった。

事業名	実施場所	回数
久留米市タイムケア事業	久留米市立屏水中学校	96回
朝倉市療育支援事業	朝倉市ピーポート甘木	17回
三潞・城島地区発達支援事業	三潞・城島保健福祉センター	12回
乳幼児発達診査事業	北筑後保健福祉環境事務所	3回

《出張》

6月24日	施設長・リーダー職員研修（福岡市中央区）	相談支援専門員 1名
9月12～13日	九州障害児者施設研究会（佐賀）	相談支援専門員 1名
10月16日	訪問看護情報交換会（朝倉市総合庁舎）	相談支援専門員 1名
1月27～28日	地域生活支援推進研究会議（東京）	相談支援専門員 1名
2月18日	福岡県身障協研修（福岡市博多区）	相談支援専門員 1名

《その他》

- ・久留米市相談支援事業所連絡会出席…15回
- ・久留米児童相談所管内交歓大会及び実行委員会出席…8回
- ・うきは市地域障害者協議会出席…児童部会、就労支援部会含め6回
- ・11月10日 移転新築記念事業としてモンゴルアヤラググループの公演を田主丸町そよ風ホールで実施。

給食部（中央給食）

給食部理念：栄養管理・健康管理に努め、真心のこもった調理で食の喜び、
大切さを伝える。

(1) 給与栄養量

	熱量 (Kcal)	蛋白質 (g)	脂肪 (g)
平成 25 年 4 月	1936	72.5	55.4
5 月	1960	73.9	54.5
6 月	1906	71.3	50.0
7 月	1857	69.4	46.5
8 月	1916	73.7	53.4
9 月	1939	71.8	52.9
10 月	1885	72.5	48.0
11 月	1984	75.2	57.7
12 月	1911	70.3	52.9
平成 26 年 1 月	1975	74.8	54.9
2 月	1985	75.4	54.3
3 月	2000	74.4	57.3
平均	1938	72.9	53.2

(2) 喫食率 (%)

	おひさま寮	ともだち寮	なかよし寮
平成 25 年 4 月	97.2	95.2	97.3
5 月	96.8	93.3	97.6
6 月	96.7	93.6	97.2
7 月	97.0	91.8	97.6
8 月	96.9	91.9	97.7
9 月	98.1	91.8	97.1
10 月	97.7	92.0	96.9
11 月	98.3	91.8	96.0
12 月	97.3	92.3	96.7
平成 26 年 1 月	97.9	93.2	95.9
2 月	97.7	92.7	97.0
3 月	97.7	92.7	96.8
平均	97.4	92.7	97.0

(3) 行事食

- 平成 25 年 5 月 特別支援学校運動会 弁当
サンドイッチ、卵焼き、から揚げ、ウインナー
苺、ほうれん草のかか和え
- 7 月 盆踊り大会
カレーライス、バナナ
模擬店（焼き鳥、たこ焼き、焼きそば、綿菓子、ジュース）
- 11 月 特別支援学校文化祭弁当
ハンバーグ、卵焼き、にんじんグラッセ、ブロッコリー
星ポテト、味付け団子、プチトマト、胡麻和え、果物
- 12 月 コアラ園クリスマス会
おにぎり、ローストチキン、ミニコロケ、ミニグラタン
サニーレタス、ミニトマト、スパゲティナポリタン、
ウインナー、イチゴ、コーンスープ、ミニ菓子パン
ゆうかり医療療育センタークリスマス料理
オードブル(ピザ、テリーヌ、エビのケチャップ煮、チヂミ)
ミートローフ盛り合わせ
ケンタッキーフライドチキン盛り合わせ、
ポインセチア、キムチ鍋
フルーツ盛り合わせ(苺、オレンジ、メロン)
ケーキ盛り合わせ、
いなり寿司、おにぎり(なかよし寮、ともだち寮)
焼き飯、ポタージュ(ともだち寮、おひさま寮)
カニグラタン、茶わん蒸し(おひさま寮)
- 平成 26 年 1 月 おせち料理
元旦(昼)
雑煮、がめ煮、照り焼き、昆布巻、数の子、エビのつや煮
おたふく豆、紅白なます、角煮、牛肉の二色巻
カニ爪フライ、卵焼き、かまぼこ、羊羹、栗の甘露煮、果物

(4) 研修関係

職員研修

- | | | | |
|---------|-----|-------------|--------|
| 平成 25 年 | 6 月 | 特定給食施設等研修会 | (久留米市) |
| | 7 月 | 定例報告等説明会 | (久留米市) |
| | 8 月 | 病院立ち入り検査説明会 | (久留米市) |

	9月	西日本肢体不自由児施設運営研究会	(松江市)
	10月	全国重症心身障害児施設職員研修会	(大阪)
	11月	重症児施設研修会打ち合わせ	(糟屋郡)
平成26年	3月	特定給食施設等研修会	(久留米市)
	3月	重症児(者)食・栄養研究会	(田川郡)

(5) 実習生の受け入れ

6/17(月)～6/22(土)まで栄養士2名

久留米信愛女学院短期大学より

(6) 衛生管理

- ① 食品の納品時、品質のチェックと納品時間記入
(冷蔵品は表面温度記入、冷凍・冷蔵品は収納庫の温度記入)
- ② 手洗い液(アルボース)による手洗いとウエルパスによる消毒の励行
- ③ 調理時、中心温度計にて中心温度測定、記入
- ④ 調理の出来上がり時間記入
- ⑤ 調理後、冷蔵庫に入れるものは入れた時間・温度記入
- ⑥ 調理器具やシンクの除菌にアルコール、バリアス1(食品添加物除菌剤)使用
- ⑦ 冷蔵庫の清掃、温度記入
- ⑧ 調理室の温度・湿度記入
- ⑨ 検収室の温度記入
- ⑩ 盛りつけ時、使い捨て手袋、使い捨てマスク使用
- ⑪ 洗浄室、下処理室にて専用のエプロン、スリッパ使用
- ⑫ 水質検査 始業前、終業後に残留塩素測定(毎日)
業者による管理(毎月)
- ⑬ 細菌検査(検便)
腸管出血性大腸菌(O-157他)を含む病原腸内細菌検査(毎月)
ノロウイルス抗原検査 10月、3月
- ⑭ 業者(トキワビル)によるネズミ・ゴキブリ駆除 毎月

(7) 給食委員会

構成メンバー 所長、事務局長、看護部長、薬剤師、看護課
育成課、訓練課、給食部より代表者
園生代表者(ともだち寮2名、なかよし寮2名)

開催回数 年10回

内容

今年度は、食器の検討を行ってきた。最初にコップの見直しを行った。給食委員会で話し合っただけで決定したものの、実際使ってみると今までより音がして好ましくない場面もあった。話し合いだけではなく実際に病棟に使用してもらって決定すべきだったと思っている。食器も見本をとりよせたが、材質がコップと同じため、おひさま寮が使えないようである。今後また検討していきたい。

給食委員会の中で出た希望を少しでも叶えることができるように、これからも努力していきたい。

(8) まとめ

今年度は、コアラ園の幼児向けメニューの要望が出たため、別メニューで献立を作成してきた。当センターでは曜日によって御飯、麺、パンの曜日が決まっているので、それを変えてほしいというのが一番の希望であった。新しい厨房にも少し慣れてきた 11 月ごろより取り組んでみた。保護者からは、麺が食べられてよかった、子ども向きのメニューになったなどの声が聞かれ、今後もまたより良い給食にしたいと思っている。また、おひさま寮の嚥下困難者に対してはソフト食に取り組み、見た目も良いように、ミキサーにかけた材料をゲル化剤で固め、魚などの型を抜いて出してみた。時間がかかるのでいつもはできないが、少しずつでも安全で、見た目も良く食欲をそそる料理を提供していきたいと思っている。

	主メニュー	おひさま寮	ともだち寮	なかよし寮
4月	カツカレー	誕生者なし	お汁粉	アイスクリーム アラモード
5月	ビビンバ井	チョコパフェ	おはぎ	チョコパフェ
6月	ステーキ井	パパロア	フルーツパパロア	フルーツパフェ
7月	ちらしずし	フルーツパフェ	誕生者なし	メロン盛り合わせ
8月	焼肉井	流動食の方のみ	あんみつ	アイスクリーム 盛り合わせ
9月	オムライス	フルーツパフェ	ピザ	プリンパフェ
10月	カツ井	チョコパフェ	チョコパフェ	チョコパフェ
11月	天井	誕生者なし	小倉ホットケーキ	たこ焼き
12月	焼肉井	チョコパフェ	フルーツあんみつ	チョコパフェ
1月	から揚げ井	フルーツパフェ	フレンチトースト アラモード	プリンアラモード
2月	牛井	いちごパフェ	プリンアラモード	チョコパフェ
3月	ステーキ井	いちごパフェ	誕生者なし	ホットケーキ アラモード

総務部

<職員研修及び見学者>

《概要》

本年度の新任職員研修は、ゆうかり学園の移転引越作業もあり、例年より1週間ずらして4月8日から開催し、内容が充実した研修になるように心掛けた。対象者は、23名であった。

外部からの見学者は13組159名、見学時間は2時間前後で、最初に学園の沿革について説明を行い、その後、施設見学案内を行った。耳納学園の案内では、製品の販売につとめた。

○ 職員研修

- ・新任職員研修 平成25年4月8. 9. 10. 11日 (4日間)

○ 見学者の案内

5月 23日 (木)	御井校区社会福祉協議会	25名	10:00~12:00
6月 5日 (水)	障害者支援施設 うすま苑	1名	10:00~12:00
7月 4日 (木)	障害者支援施設 うすま苑	2名	10:00~12:00
7月 12日 (金)	久留米特別支援学校	29名	10:00~11:00
9月 11日 (水)	柳川市児童委員協議会	35名	10:00~11:30
9月 18日 (水)	田主丸婦人会	25名	9:00~14:00
9月 26日 (木)	福岡県民生児童委員	12名	14:30~15:30
10月 25日 (金)	松浦地区社会福祉協議会	25名	10:30~12:00
10月 28日 (月)	川会小母親委員会	30名	10:00~12:00
12月 5日 (木)	安武校区社協	20名	13:00~15:00
3月 6日 (木)	三苦校区社協	35名	10:30~11:30
3月 4日 (火)	川会校区社協	10名	10:00~11:00
3月 15日 (土)	竹野地区婦人会	20名	10:00~14:00

こもりぐま保育所

本園では、家庭に代わり子供達を預かり家庭内の温かさにより近づけるよう、愛情溢れたスキンシップの保育を目指してきた。

健康で意欲的、創造的な心と身体を育成する目的で、戸外活動も取り入れており、自然に恵まれた環境の中、四季折々の果物・花・虫などと触れ合っている。又、毎年恒例のバス遠足と、月1回の買い物は、子供達が楽しみにしている行事のひとつである。

その他、個人の能力、年齢に合わせた生活習慣の習得を子供の発達状態をよく見極めて、無理なく個別指導をしている。そして、集団の中における協調性を遊びの中で養ってきた。

本園がまず何よりも、大切にしているのは家庭的雰囲気の中での保育である。そのためにも健康状態など、家庭との連絡を密にと心掛けている。

【2013年度（平成25年度）利用児】

延べ 277 人 開所日数 145 日

1日平均 1.9 名

【バス遠足（H25.11.22）】

うみたまご（大分市）

児童発達支援センター コアラ園

<総合療育>

平成 24 年 4 月より福祉型児童発達支援センターコアラ園としてスタートし、1 年間のみなし期間後、3 事業（①児童発達支援 ②放課後等デイサービス ③保育所等訪問支援）に取り組む。

①児童発達支援

日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与、集団生活への適応訓練等の便宜を付与することを目的とし、月曜日～金曜日の週 5 日、「あそび教室」というかたちで、グループ療育及び個別療育を実施した。内容として、基本的な生活習慣（食事・排泄・衣類着脱等）の獲得、感覚あそび、知育あそび、歌あそび、製作、母子あそび、運動あそび、プール、戸外あそびなど、個々の成長段階に合わせて提供した。遊びを通しての楽しさ、自己表現、作品完成への自信や達成感を味わうことを大切にし、不快ではなく、快な状態を出来るだけ多く提供する事を心掛けながら進めていった。

また、母子関係の安定と充実に努め、そこから対人関係づくりへと発展出来るように配慮し、集団における社会性や協調性を伸ばすことも目的とした。

年間行事としては、母親講座（10 名参加）、クリスマス会（35 名参加）、公開療育（20 名参加）、卒園式（23 名参加）などの園内行事と、海水浴（8 名参加）、遠足（8 名参加）、親子レクリエーション（33 名参加）、ゆうかり学園全体で行う盆踊り花火大会（34 名参加）などの園外活動も行った。

年間で 60 名の契約利用児を受け入れ、1 日平均で約 10～15 名が利用した。

②放課後等デイサービス

生活能力の向上のために必要な訓練、社会との交流の促進その他の便宜を供与することを目的とし、月曜日～金曜日の週 5 日、15 時～18 時の時間帯で就学児を受け入れた。今年度は、田主丸特別支援学校の生徒 4 名（高校生 3 名、小学生 1 名）が利用した。

③保育所等訪問支援

当該施設を訪問し、当該施設における障害児以外の児童との集団生活への適応のための専門的な支援その他の便宜を供与することを目的とし、事業をすすめるも、今年度の利用実績はない。

その他、就学を迎える保護者に対し、特別支援学校、特別支援学級の見学案内を行うとともに、並行通園をしている保育園、幼稚園への情報提供書作成も行った。また、出産を迎える母親に対してのサポートとして、単独通園を受け入れた。

地域へも出向き、久留米市、うきは市、朝倉市と連携をとりながら保育療育・子育てに関する相談業務を行い、地域支援事業・子育て支援事業を行った。

通園児診断名

診 断 名	該 当 児
自閉症スペクトラム障害	11
言語発達遅滞	8
言語発達障害	8
精神運動発達遅滞	7
ダウン症候群	7
発達性協調運動障害	4
自閉性障害	3
脳性麻痺	3
広汎性発達障害	2
運動発達遅滞	2
重度精神遅滞	1
裂脳症	1
滑脳症	1
セッケル症候群	1
先天性サイトメガロウイルス感染症	1
合 計	60

心理検査

発達検査	2
知能検査	15

上記の様に、必要に応じて発達検査並びに知能検査を行い、対象児の課題等を見出すと同時に、今度の療育方針を決定するうえでの一資料とした。また、就学を迎える年長児への情報提供として実施した。

【出張関係】

出張名	出張者	期 日	会 場
県新任職員研修	保育士 1名	H25. 5/10・5/21	クローバープラザ
久見相新任職員研修	保育士 1名	H25. 9/10	久留米児童相談所
県相談支援従事者研修	保育士 1名	H25. 9/12～13	ウェルとばた
県児童発達支援管理 責任者研修	保育士 1名	H25. 10/29	大野城まどかぴあ 大ホール
県児童発達支援管理 責任者追加研修	指導員 1名	H25. 10/29	大野城まどかぴあ 大ホール
幼児通園療育職員 講習会	保育士 1名	H26. 1/27～31	心身障害児総合医療療育 センター（東京）
県サービス管理責任者研修	保育士 1名	H26. 2/25～26	クローバープラザ

相談支援事業所 夢の紀

《概況》

法改正における相談支援事業の充実を軸に、地域との連携を図っていくため、平成 25 年 4 月 1 日付にて久留米市より指定相談支援事業所として、相談支援専門員 3 名（ゆうかり医療療育センター兼務）で事業を開始した。

法人内施設との連携をはじめ、障害福祉課・久留米市内の他相談支援事業所・サービス事業所との連携を中心に、事業展開を行っていった。相談支援事業において、重症児の対応ができる事業所が少なく、医療型障害児施設をもつゆうかり学園の相談支援事業所として、その機能を地域の中で求められ、ゆうかり医療療育センターと先駆相談支援事業所との連携で応えていった。地域における相談支援事業所として、要望はさらに求められてくるものであり、その都度対応していきたい。

平成 27 年度までに福祉サービス利用者のサービス利用計画の策定が定められており、今後も、各障害福祉課・事業所等との連携を取りながら、法人施設利用者をはじめ、地域生活における障がい児者への相談対応とともにサービス利用計画書作成を行っていく。

《相談件数》

相談支援の種別	相談件数（述べ）
基本相談	地域事業部相談支援に記載
一般相談支援（地域移行・地域定着）	0 件
特定相談支援	15 件
障害児相談支援	4 件
継続計画相談支援	11 件

《今年度参加会議》

久留米市相談支援事業所連絡会

田主丸特別支援学校相談会

久留米市事業所ネットワーク協議会

八女筑後・久留米圏域相談支援従事者研修会

訪問看護情報交換会（朝倉市）

久留米介護福祉サービス事業者協議会

耳 納 学 園

《概況》

本年度の社会福祉を取り巻く状況を見ると、年度当初の4月には、障害者の社会参加の機会の確保及び地域社会における共生、社会的障壁の除去に資するよう、総合的かつ計画的に行われることを基本理念とした「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」が施行された。同じく4月には、官公需を就労支援事業所への仕事として受注がなされるなど障害者の工賃向上や雇用に結びつけ、少しでも地域で安定した生活ができることを目指した「国等による障害者就労施設等からの物品等の調達推進等に関する法律」も施行された。また、その具体化に向けて諸々の制度改革が行われて来た「国連障害者権利条約」についても、平成26年1月20日に批准し、2月19日発効となった。

そのような中で、本年度は法人の大規模移転事業の年として当園も無事移転を完了することができた。新しい住居棟、作業棟での生活や作業が始まり、利用者様が望まれていた個室化された住居棟ではプライバシーも確保され、温泉の浴室、明るい食堂など充実した環境で利用者様も気分一新の生活をスタートされた。

支援面では、当園の基本理念、使命に基づき、就労支援、生活支援を進めてきた。作業面では、技術向上に向けての指導などの取り組みを行った。医療や食事面では、各々の専門分野から利用者様の健康の維持・管理に努めた。その結果、懸念された感染症などの罹患者の発生も無く年間を過ごして戴くことが出来た。

販売面では、恒例のゆめタウン久留米店での第7回目の展示即売会を行った。多くの方にご来場を戴いたが、期間中の売上は約170万円で昨年度より約50万円の減収となった。また、移転時に設備を整えてもらっていた厨房設備を活用して、今年度より新たに食品加工部門を開設し、焼き肉のたれの商品化を行った。

利用者様の利用状況については、年度内に2名（女性）の方が退園され、1名の方は高齢の保護者の希望により自宅（佐賀県）近くの就労継続事業所へ、もう1名の方は近隣（大刀洗町）の生活介護事業所へ移られた。一方、入園の方は男性2名（ともに県リハよりの紹介にて待機されていた方）、女性1名（緊急避難事例）で、3月末現在、入園を希望される待機の方は0名の状況である。

1) 本年度の各事業別利用状況

《入所支援》定員 34 名

年間延べ利用者数 12,528 名、充足率 100.9%、1 日平均利用者数 34.3 名

《継続 B 型》定員 40 名

年間作業参加実績延べ利用者数 7,959 名、定員から見た充足率 83.6%、1 日平均作業参加実績利用者数 33.4 名

2) 本年度の地域別入退園状況は、別表（1）の通りである。

別表（1） 本年度の地域別入退園状況

入園状況 地域別	本年度当初		入 園		退 園		本年度末	
	男	女	男	女	男	女	男	女
福岡市		1						1
久留米市	3	3	2				5	3
柳川市	1	3		1			1	4
朝倉市	2	2				1	2	1
大川市	1	1					1	1
小郡市		1						1
うきは市	2	2					2	2
太宰府市		1						1
新宮市		1						1
八女市	1	1					1	1
みやま市		1						1
大刀洗町	1						1	
上毛町	1						1	
東峰村	1						1	
伊万里市		1				1		
唐津市	1						1	
武雄市	1						1	
佐賀白石町		1						1
計	15	19	2	1	0	2	17	18

【就労支援課】

本年度は、園の移転に伴い不慣れな作業場に戸惑いながら、年度当初は利用者様や職員も中々スムーズに生産活動に入ることができなかった。本格的に生産が始まったのは5月に入ってからであった。

販売においては、これまで通り、道の駅3か所と三気堂薬局などの委託販売を継続し、出向販売、各種イベントの参加や独自販売を行い売り上げの向上を目指した。

また、今年度は、新たに食品加工として焼肉のたれの製品化に取り組み、年度当初より試行錯誤を重ね、多くの職員に試食を行い、秋には漸く販売に漕ぎ着けることができた。購入して戴いた方々にはフルーティーな味の評判も良く、今後は安定した生産と更なる販路を確保しなければならない。販売の大きなイベントとしては、昨年度行われた全国ナイスハートバザールが今年度からは県主催による「まごころ製品販売（販売期間5日間）」と言う名称にて、福岡三越で行われ、63施設が参加の中、当園も目標の売上げを納めることができた。また、1月恒例の「ゆめタウン展示即売会（販売期間4日間）」は、職員の協力により、無事終了することができた。しかし、売上面では、初日、2日目と客足が遠く、これが影響したのか、大幅な減収であった。園の最大のイベントでもあるこの即売会の結果を深く反省すると共に、販売のあり方の工夫や、消費者のニーズに応えられるためのアイデア的製品の開発など、今後も積極的に展開する必要があることを職員は肝に銘じ、このことを陶芸班、工芸班、そして食品加工班の利用者様と共に全員で強く意識をして、今後も生産活動に励みたい。

1) 本年度の売上及び工賃支給状況は、別表(2)の通りである。

別表 (2) 売上及び工賃支給状況

月	売上金額	工賃支給額
4月	100,166	210,401
5月	359,472	202,243
6月	362,671	200,796
7月	305,832	208,134
8月	340,446	206,178
9月	265,919	202,701
10月	253,628	205,923
11月	353,996	207,275
12月	411,909	217,050
1月	1,816,320	601,369
2月	320,772	152,525
3月	614,514	202,350
合計	5,505,645	2,816,945

※ 本年度の工賃支給率は、51.2%

【厚生課】

本年度は、新しく出来上がった施設への引っ越しからのスタートであった。引っ越し期間中、利用者様は自宅へ一時帰省し、その間に荷物を搬入するという手順で実施した。帰省されなかった利用者様には、4月1日午後より真新しい施設へ引っ越しをしたが、皆さんは初めて見るきれいな建物で今から生活が始まるという嬉しい気持ちで荷物の整理をされていた。また、保護者会からも積極的に荷物の搬入や部屋での荷物の整理などを手伝って戴き、多くの職員やボランティアの方々の協力を得て無事に引っ越しが完了した。4月下旬には保護者会から食堂用として、テーブル10台と椅子20脚を、今年の2月には食堂用80インチテレビの購入資金一部として30万円の補助を戴いた。利用者様の毎日の食事場面やビデオ映写会などに利用して快適な生活に役立っている。

新生活が始まって、今までと違う生活場面が多くあり戸惑うこともあったが、その都度、自治会役員の方と職員とで話し合いを持ちながら問題を解決していった。しかし、夏頃より利用者間の小さなトラブルの報告が頻回に寄せられるようになった。以前は4人部屋で協力しながらお互いを思い遣って生活されていたが、個室で生活するようになり、自分中心の考え方になってきているのではないだろうか自治会役員の方と話し合いを持ち、以前のように週番制を復活させて利用者様全員で協力し

て公共の場の清掃をすることを決めて早速実行し、トラブルのあった利用者様には自治会長と職員とで両者に面談を行い、解決策を一緒に話合っで見出していくという対応の仕方を取った。

次年度も、利用者様が困っていることや、利用者様同士の問題など、報告があった場合には、自治会役員の方を中心に早期に対応して問題を解決し、利用者様一人ひとりが生活しやすいような環境づくりを目指したい。

1) 本年度の在園期間別人員数及び平均在園期間は、別表（3）の通りである。

2) 本年度の年齢区分別人員数及び平均年齢は、別表（4）の通りである。

3) 本年度の主な実施事項は、別表（5）の通りである。

別表（3）入園期間別人員数及び平均入所期間

区分	1年未満	1～5年未満	5～10年未満	10～15年未満	15～20年未満	20年以上	計	平均
男	2	2	1	3	1	8	17	19年9ヵ月
女	1	2	2	2	2	9	18	20年5ヵ月
計	3	4	3	5	3	17	35	20年1ヵ月

別表（4）年齢区分別人員数及び平均年齢

区分	20歳未満	20～30歳未満	30～40歳未満	40～50歳未満	50歳以上	計	平均
男	0	1	2	4	10	17	51歳2ヵ月
女	0	1	2	7	8	18	49歳8ヵ月
計	0	2	4	11	18	35	50歳5ヵ月

別表 (5) 主な実施事項

月	日	行 事	月	日	行 事
4	1	新耳納学園へ引っ越し	10	20	運動会中止のため、各施設にて
4	26	1日レクリエーション			レクリエーションを行う
5	6	第51回身体障害者体育大会 (博多の森競技場) 3名出場	10	22	外出(施設見学)
			11	22	夕食会(調理実習)
6	6	買い物外出	12	3	買い物外出
6	21	調理実習(夕食会)	12	25	もちつき・忘年会
7	25	ゆうかり盆踊り花火大会	1	10	カラオケ大会
8	2	1日レクリエーション	1	11	外出(展示会実演)
9	26	調理実習(夕食会)	2	5	調理クラブ
10	3	外出(施設見学)	2	14	1日レクリエーション
10	16	外出(施設見学)	3	15	ビデオ映写会

【看護課】

今年度は移転により個室での生活となり、気持ち的には落ち着いたとの声も多く聞かれた。その反面、転倒による外傷や骨折が多く見られ、加齢に伴う筋力低下も考えられたため、希望される方や必要な方には定期的に機能訓練を受けることを勧め、ゆうかり医療療育センターから訓練士が出向しての訓練を受けるようにした。その中のある女性利用者様は、右肘関節脱臼で日常生活動作の著しい低下により園での生活が困難になられたため、ゆうかり医療療育センターに1カ月以上入院した。退院後は、特殊車椅子を業者から借用して、何とか当園で生活されている状況である。今後は、このように急激に日常生活動作能力が低下する利用者様への対応について、考慮しておくことが必要ではないかと痛感している。

感染症の予防対策として、5月に食中毒、10月にインフルエンザ、12月にノロウイルス感染症について利用者様に説明し、こまめな手洗いと外出時などのマスク着用をお願いした。また、感染症状が出現した時には早期の隔離対応を行い、今期の感染症の発症例はなかった。

今後も利用者様とのコミュニケーションをより密に行って、利用者様に応じた外傷などの予防や生活習慣病の発症予防に努め、出来るだけ長く利用者様個々の健康で楽しい生活が維持できるように支援したい。

なお、月別受診人員数は別表(6)の通りである。

別表（6）月別受診人員

月別 疾病別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
定期薬内服	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
呼吸器疾患	4	6	4	3	3	3	4	6	8	7	5	6	59
内科疾患	38	45	39	55	41	33	61	46	50	46	26	29	509
外傷性疾患	0	0	0	0	0	2	3	3	10	12	8	5	43
外科疾患	19	22	44	28	23	28	18	25	26	16	18	24	291
機能訓練	65	79	69	60	54	25	74	54	58	67	60	75	740
皮膚疾患	3	16	8	10	9	4	10	11	7	11	4	5	98
歯科	12	13	20	19	7	18	20	25	18	13	21	18	204
耳鼻科	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
眼科	1	10	5	6	6	2	3	10	6	1	8	3	61
婦人科	0	1	1	1	1	2	2	2	1	1	2	1	15
精神科	2	2	5	5	3	4	4	4	5	4	1	1	40
入院	1	0	1	0	0	1	1	0	0	0	1	1	6
合計	146	196	197	189	148	123	201	187	190	179	155	169	2080

給食部

本年度、職員は4月の移転後の業務について、いろいろな面で戸惑うことが多かった。

一方、設備面では明るく広々とした食堂での食事で、温冷配膳車の使用で温かい物は温かく、冷たい物は冷たく食べて戴けるようになり、利用者様は大変喜ばれている。

今後も、利用者様の健康の維持・向上を考えながら、毎日の食事を楽しみにして戴けるような支援を行っていききたい。

1) 給食理念

栄養管理、健康管理に努め、真心こもった調理で食の喜び、大切さを伝える。

2) 給食計画

イ. 栄養指数による個人の喫食状態の把握

ロ. 個人特別食

糖尿病食 …………… エネルギー、炭水化物、脂肪制限

心臓病食 …………… エネルギー、塩分制限

腎臓病予防食 … たんぱく質、塩分制限

脂肪肝治療食 … エネルギー、脂肪制限

3) 行事食

平成 25 年	4/26	開園記念日	焼きそば (飲食店出張調理)
	7/25	盆踊り	カツカレー、焼きそば他
	8/2	レクリエーション	バーベキュー
	12/25	餅つき・忘年会	おでん、ケーキ、チキン、果物 飲み物
平成 26 年	1/1	お屠蘇・お雑煮・おせち料理	

4) 研修

平成 26 年 3 月 重症児 (者) 食・栄養研究会 田川郡

5) 衛生管理

- ① 冷蔵庫の掃除、温度計測、記入
- ② 納品時の品質のチェック (表面温度の測定含む) と納品時間の記入
- ③ アルボースによる手洗いとウエルパスによる消毒の励行
- ④ 調理の出来上がり時間記入
- ⑤ 検食の確保—原材料および調理済み食品を、食品毎に 50 g 程度ずつビニール袋に密封して、-20℃以下で 2 週間以上 (学園では 3 週間) 保存とする。
- ⑥ 水質検査 残留塩素の測定 (始業前、終業後 1 日 2 回)
業者による管理 (毎月) … 理化学と細菌検査
- ⑦ 細菌検査 腸管出血性大腸菌 (O-157 他) を含む病原腸内細菌検査 (毎月)
ノロウイルス抗原検査 (10 月、3 月)
- ⑧ 調理済み食品の中心温度測定
- ⑨ 使い捨て手袋の使用 (盛り付け・調理済み食品に触れる時)
- ⑩ アルコールによる除菌 (調理器具・シンクなど)
- ⑪ 業者 (トキワビル) によるネズミ・ゴキブリ駆除 (毎月)
- ⑫ 調理室の温度・湿度記入

⑬ 検収室の温度記入

⑭ 洗浄室、下処理室にて専用のエプロン、スリッパ使用

6) 給食会議

参加者 園長、就労支援課・看護課・厚生課（各1名）、調理師、栄養士
利用者様代表6名、自治会長

給食部の都合にて1回の開催となりました。

その都度、利用者様の意見や希望を聞き、検討し対応した。

(主な内容)

- ・スプーン、フォークを利用者が配膳していたが、利用者様の機能低下により出来なくなった。
→ 給食が配膳時にお盆に入れておく。
- ・やかんが重くて注ぎにくい（同じく機能低下により）。
→ 各テーブルに20やかんを置く。また、夕食時はペットボトル用に大きいやかんを準備する。
- ・食事中に不満をいい、周囲が迷惑している。（食べにくい）
→ 自治会にて食事は楽しく、周りに迷惑をかけないように声掛けてもらう。

7) 調理クラブ主催の調理実習

平成25年 6/21（金）もつ鍋、肉・天ぷらうどん、ポテトサラダ
（選択メニュー）

9/26（金）餃子、お好み焼き、バナナ

11/22（金）鍋（しゃぶしゃぶ、カレー）

8) 誕生日メニュー

H25年4月	3名	お好み焼き、わかめ御飯、ポテトサラダ、味噌汁
5月	6名	ステーキ丼、海鮮サラダ、茶碗蒸し、すまし
6月	1名	鶏の竜田揚げと野菜の盛り合わせ、酢の物、すまし
7月	5名	ステーキの盛り合わせ、豆腐サラダ、すまし
8月	2名	天ぷらの盛り合わせ、茶碗蒸し、野菜サラダ
9月	1名	天ぷらの盛り合わせ、茶碗蒸し、野菜サラダ
10月	4名	牛丼、ポテトサラダ、すまし
11月	4名	牛丼、ポテトサラダ、すまし
12月	2名	炊き込み御飯、焼き魚、酢の物、すまし

H26年1月 3名 とんかつと野菜の盛り合わせ、酢の物、すまし

2月 1名 焼き鳥丼、ポテトサラダ、すまし

3月 2名 焼肉丼、和え物、すまし

*誕生者にはデザートを出している。

9) 栄養給与量は表(7)の通りである。

別表(7) 栄養給与量

月区分	熱量 (kcal)	蛋白質 (g)	脂肪 (g)
平成25年4月	1980	73.5	55.6
5月	2021	75.8	55.3
6月	1958	72.2	49.9
7月	1919	70.4	47.3
8月	1955	74.6	52.9
9月	1987	73.0	53.1
10月	1924	73.8	48.5
11月	2028	76.2	57.1
12月	1962	71.0	52.0
平成26年1月	2004	75.8	50.9
2月	2024	75.2	54.3
3月	2024	74.7	54.4
合計	23786	886.2	631.3
平均	1982	73.9	52.6

【 25 年度研修等出張記録 】

期 日 (期 間)	研 修 会 名 称	出 張 先	参 加 数
H25 5/10	社会福祉法人役員施設役職者研修会	久留米市	1
5/20	県セルフ協第1回施設長会	福岡市	1
6/13, 14	県身障協第1回施設長・職員研修会	飯塚市	3
7/ 3	市雇用問題協 パワハラ対応セミナー	久留米市	1
7/ 4, 5	全国身障施設協 臨時研究大会	鹿児島市	1
7/ 8, 22	社会福祉施設役職員研修 基礎研修	春日市	1
7/ 9 ~ 12	全国社会就労センター総合研究大会	札幌市	2
7/29	市障害者相談ネットワーク連絡会	久留米市	2
8/20	社会福祉施設役職員研修 管理系研修	春日市	1
9/ 5	食品表示制度研修会	福岡市	3
9/11 ~ 13	九州身体障害児者施設研究大会	宮崎市	3
10/ 4	社協業務目標の設定・管理・達成研修	春日市	1
10/10	県セルフ協第1回施設長・職員研修会	福岡市	2
10/17	県 社会福祉大会	春日市	1
10/18	高次脳機能障害 支援実践セミナー	北九州市	1
10/30, 31 11/12	県社協 コーチング研修	春日市	1
11/ 6, 7	九州セルフ研究大会	熊本市	3
H26 1/27, 28	第23回全国社会就労センター長研修	東京都	1
1/27 ~ 30	全社協事務職員会計実務通信課程講座	横須賀市	1
2/18	県身障協第1回施設長・職員研修会	福岡市	1
2/19	県社協 福祉施設防災セミナー	福岡市	1
2/26	県社協 労務管理研修	春日市	1
2/26 ~ 28	全国社会就労センター総合研究大会	仙台市	1
3/ 3	市障害者相談ネットワーク連絡会	久留米市	1
3/ 6	県社協 処遇記録研修 (障害者分野)	春日市	1
3/10	県セルフ協 第2回施設長会	福岡市	1
3/11	県社協 施設職員専門研修 A2	春日市	1
3/11	第4回重症児(者)食・栄養研究会	福智町	1
3/14	県社協 施設職員専門研修 A2	福岡市	1
3/25	県身障協 第2回施設長会	福岡市	1

千歳療護園

〈概況〉

平成25年4月1日より障害者自立支援法から「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」障害者総合支援法に制度が転換し、新たな障害者施策が始まり、社会情勢・制度の動向から目が離せない状況下であり、より一層の職員の専門性・資質向上等、人材の育成が求められ、全国や県主催の各研修会に参加し、施設職員としての意識改革、スキルアップ・ケアの質の向上に努めてきた。また、サービス管理責任者を中心に各利用者様への“提供サービス確認表”を作成、担当者が毎週記入し、月に一度チェックを行っている。細やかなサービスの実現の為に聴き取りを十分に行い、個別支援の計画・実施に力を入れている所である。

平成25年3月より、週2回から3回の入浴を実施しながら、希望外出への対応や外部団体からの招待については、なるべく参加できるように計画している。しかし、利用者様が生活の中でとても楽しみにされている、職員付添による個別外出が減少している。実施していく中で有償の付添者やガイドヘルパー等の社会資源の情報提供等マンパワーの確保が今後の課題である。

そのような中、昨年身体障害者スポーツ大会の「ビーンバック投げ」に福岡県代表として岐阜県で行われた全国大会に出場し優勝したN様に続き、今年も同じ種目で県代表として東京都で行われた全国大会にY様が出場し優勝している。他利用者様へも良い刺激となり、園内も明るい雰囲気となっている。また、毎年10月に行われていた“ゆうかり大運動会”が、ゆうかり学園の移転に伴い送迎や安全面を考慮して中止となり、各施設・寮にてレクリエーション大会が行われた。千歳では3グループに分かれて3種類のゲームを行ったが、その中に「ビーンバック投げ」も取り入れ、参加者全員で楽しんだ。工夫をこらした全員参加のレクリエーションに利用者様はもちろんの事、当日参加されたご家族の皆様にも大変好評でとても喜んでいただいた。

昨年4月にゆうかり学園の移転が実施された。また、平成24年7月の九州北部豪雨の避難生活を期に、久留米市より千歳の新築移転計画についても早期移転の打診を受けて、平成25年度事業の耐震化整備事業として国へ協議書の提出を行い、平成26年7月末に竣工、8月の移転に向けて準備を進めている。

<経理・庶務課>

- ① 本年度の利用人員は、日中利用者は年間延 31,643 名、96.3%で、夜間利用者は年間延 29,843 名、102.2%の充足率である。
- ② 本年度のショートステイ利用者様は年間延べ 124 名、日中一時利用者はなかった。
- ③ 本年度の利用者様の地域別入退園者状況は別表（1）による。

<給食課>

1) 給食方針

食事は生命の維持、身体活動はもちろんのこと意欲の向上にも影響し、生活支援すべてに関わるというところで、その重要性を再認識している。日々の食事作りが利用者様にとって心の栄養となれば幸いである。

2) 食糧構成基準量と給与量の比較は別表の通りである。

別表 食糧構成基準量と給与量の比較

食 品 量 表			
食品群別		1人1日あたりの使用量 (g)	食糧構成 (g)
動物性食品	魚介類	62	60
	獣鳥肉類	68	60
	乳類	70	70
	卵類	31	25
野菜果実類	緑黄色野菜類	77	80
	淡色野菜類	167	180
	海藻類	7	5
	いも類	43	45
	果実類	69	60
穀類	米	161	175
	パン類	19	20
	麺類	65	45
豆類	大豆食品	40	35
	豆類		
	味噌類	13	15
油脂調味料	油脂類	17	12
	砂糖類	7	8

*Caの補充として1人1日3gの乳カルシウムを使用。
 ビタミン強化にポリライス1人2g使用。

3) 栄養給与量は別表の通りである。

別表 栄養給与量

	熱量 (kcal)	蛋白質 (g)	脂肪 (g)
平成 25 年 4 月	1569	61.1	46.7
5 月	1522	61.0	43.4
6 月	1550	62.3	45.1
7 月	1538	61.5	44.6
8 月	1547	63.0	43.9
9 月	1521	61.1	43.3
10 月	1539	58.7	43.3
11 月	1523	59.3	43.7
12 月	1592	60.0	44.8
平成 26 年 1 月	1537	63.0	40.7
2 月	1566	60.8	45.2
3 月	1601	62.2	46.4
合 計	18605	734.0	531.1
平 均	1550	61.2	44.3

4) 給食計画

イ. 喫食状態の把握

ロ. 特別食

糖尿病食 (5名) ……摂取カロリー、炭水化物、塩分の制限

透析食 (1名) ……蛋白、脂質、炭水化物、塩分、K、P、水分の制限

減塩食 (6名) ……5g/日 (2名)、7g/日 (4名)

減脂食 (8名) ……可能な範囲での脂肪制限

軟菜食 (2名) ……不溶性食物繊維をなるべく避ける

5) 行事食

H25	4/17	開園記念日	花見弁当、紅白饅頭
	7/25	盆踊り大会	カレーライス、模擬店 (焼き鳥、焼きそば、タコ焼き かき氷 他)
	8/29	納涼祭	バーベキュー、(カルビー、手羽先、イカ、エリンギ ウインナー、白ちくわ、シシャモ、海老、茄子 甘藷、ピーマン、しし唐、生シイタケ)、ステーキ 焼きそば、枝豆、おつまみ、おにぎり アイスクリーム、飲み物など

	10/20	大運動会	弁当
	12/12	浮羽消防署指導避難訓練、餅つき慰問	餅（おろし餅、餡餅）、おにぎり
	12/25	忘年会	寄せ鍋、ケーキ、飲み物
H26	1/ 1	正月	おせち料理（1日と2日）
	1/ 7	七草粥	七草のお粥、他
	1/10	どんど焼き	ぜんざい

6) 誕生会

*希望メニューにスイーツを加えた。

H25年	4月	巻きずし、すまし、茄子の田楽+フルーツケーキ フルーツオ・レ
	5月	ハンバーグカレー、大豆サラダ+モンブランケーキ、ジュース
	6月	いくら丼、とろろ汁、冷奴 ゴーヤと豚肉の炒め+ブルーベリーケーキ、ジュース
	7月	巻きずし、いなりずし、味噌汁（赤だし） 照り焼き+ジャンボシュークリーム ミニッツメイドオレンジ100%
	8月	牛丼、すまし、酢味噌+モンブランケーキ、ブドウジュース
	9月	ベジタブルカレーライス、サラダ+ジャンボシュークリーム 桃ジュース
	10月	栗ご飯、塩秋刀魚、きのこ汁+チーズケーキ、飲むヨーグルト
	11月	かつ丼、味噌汁、酢味噌+ガナッシュケーキ、ジュース
	12月	牛丼、すまし、甘酢和え+ジャンボシュークリーム ミックスジュース
H26年	1月	から揚げカレー、ヘルシーサラダ+南蛮往来、オレンジジュース
	2月	ハンバーグカレー、マカロニサラダ+ガトーショコラ ピーチブレンド
	3月	手羽の照り焼き麴漬け、菜花の辛子和え+チーズケーキ ジュース

7) 出張関係

H25	6/ 4	特定給食施設研修会	栄養士	1名	出席
	7/ 4	第37回全国身体障害者施設協議会	調理師	1名	出席

H26	2/18	調理師研修会	調理師	1名	出席
	3/8	特定給食施設等研修会	栄養士	1名	出席

8) 衛生管理

- ① 生鮮食品は当日納品とし、品物によっては時間指定とした
(肉、魚、冷蔵品に関しては、納品時に表面温度の測定)
- ② 納品時の品質のチェックと納品時間の記入
- ③ アルボースによる手洗い・バリアス1にて除菌
- ④ 調理の出来上がり時間、中心温度(1分85℃以上を基準)記入
- ⑤ 保冷開始時間、終了時間記入
- ⑥ 作業前の衛生検査
- ⑦ 検食の確保—原材料および調理済み食品を食品ごとに50g程度ずつビニール袋に密封して-20℃以下で2週間以上保存とする。
- ⑧ 水質検査 給水方式(井戸水)による規定に基づき残留塩素の測定
(始業前後1日2回)、業者による管理(毎月・理化学と細菌検査)
- ⑨ 細菌検査 毎月:病原性腸内細菌検査
10月、3月:ノロウイルス抗原検査
- ⑩ 使い捨て手袋の使用(盛り付け・調理済み食品に触れる時、手指の怪我など)
- ⑪ アルコールによる除菌(調理器具・シンクなど)次亜鉛素酸Na(200ppm)による消毒(ノロウイルス)
バリアス1(ノロウイルス対応)による除菌
- ⑫ 業者委託によるゴキブリ駆除、ねずみプレートによる駆除

9) 味彩クラブ

H25	4/25	味彩クラブ	
		5,6月の誕生会希望メニュー	パンの日の配膳時間を早くして欲しい
	6/28	味彩クラブ(聞き取り)	
		7,8月の誕生会希望メニュー	希望メニュー(朝の小皿)
	8/21	味彩クラブ	
		9,10月の誕生会希望メニュー	メニューへの要望(野菜の切り方)
	10/30	味彩クラブ(聞き取り)	
		11,12,1月の誕生会の誕生会希望メニュー	

- H26 1/29 味彩クラブ
2,3月の誕生日希望メニュー
移転前のここならではの希望メニュー
- 3/26 味彩クラブ
4,5月の誕生日希望メニュー
移転を控えて利用者様の疑問に分かる範囲で応える

11) まとめ

経口摂取状態を見ていく中で、ともすればリスクの要因になる“加齢”が一因となり誤嚥性肺炎に悩まされた年であった。また、健康障害（身体的、精神的）も多様化し、利用者さまの生活面の細かなステージに介入して、情報を共有し、改善に向けて連帯意識を強めた年でもあり、今後においても更なる支援が望まれる。

生活部

(1) 生活援助課

(パートナー係)

ケアプランのニーズを中心に利用者様の立場に立った利用者様本位のサービス提供を基本において、月1回の自治会役員の方との話し合い（暖和会）や月1回の職員との懇談会、利用者様の話し合いの場（ちとせ会）を通して、利用者様の自主性・選択性・対等性を尊重しながら働きかけを行ってきた。

利用者様のニーズとして最も多い外出行事に関しては、利用者様からの希望によりコンサートやナイター観戦、昼食をはさんでの買い物などの希望外出を中心に行ってきた。体力的に長時間の外出が難しい方には、午前中もしくは午後から田主丸町、吉井町など近場での買い物やドライブなど実施し、年間の外出回数29回で、53名の方が外出している。昨年外出回数38回、71名（QCドライブ外出を加えると148名）に比べると回数、人数ともに大幅に減少している。しかし、有料の外出サービスを利用するケースは増えており、今年度は24回、延べ29名の方が利用された。これらのサービスを利用する際の業者との連絡、日時の調整、料金の支払いなどについては、利用者様に依頼され代行している。施設からの外出回数が減少した理由としては昨年の3月より入浴を週3回行っていること、今年になってから8月の移転に向けて利用者様の私物の整理、施設内外の物品などの整理作業などが影響していると思われる。利用者様には移転準備などに伴い、外出行事などへの影響が

予想されるということを事前に説明していたため、特に不満などが出ることはなかったが、今後も利用者様からの外出の希望やナイターやコンサートなどへの招待があれば前向きに検討していかなければならないと考えている。

カラオケについては、入浴の関係で毎月 1～2 回しか実施できなかったが、毎回 20 名前後の方が参加されている。月 1 回の生け花では毎回その季節の美しい花を生け、園内の各所に飾って頂いている。誕生会では利用者様が希望する職員からのビデオメッセージなど毎回工夫を凝らし、楽しいひと時を過ごしていただいている。

来年度は 8 月に移転を控えており、移転後の業務の見直し、保護者説明会の実施、移転準備作業などに追われ、移転前後は行事の実施が難しくなることが予想される。また移転後は 40 名定員の 2 つの施設に利用者様、職員が分かれることになっており、これまで 80 名を対象に行ってきた各行事や現在パートナー係が行っている預かり金、保険証類の管理や行政への申請関係などの事務的業務をどのように実施して行くのかなど、課題が山積しているが、利用者様が安心、安全、笑顔で生活が送れるようなサービスを提供していかなければならないと考えている。

☆ 週生活表は、別表 (2)、年間実施行事は、別表 (3) の通りである

(サポート係)

定員 81 名(男性 44 名・女性 37 名) 死亡退園(男 2 名)

現在、81 名の方の日常の生活介護・精神的支援、個別のニーズに添った支援を行っている。

生活介護面においては、年々利用者様の加齢に伴い、身体機能の低下、重度化・疾病による入院者が増加し、今年は 2 名の方が死亡退園された。ケアに要する時間、介護量の増加など日常業務等に追われ、利用者様にとってゆとりある介護・支援が十分に提供できていない状況であった。

入浴は利用者様への更なるサービス向上も踏まえ、4 月から週 3 回実施している。ボディソープを弱酸性の身体に優しい物に替え、皮膚疾患を考慮し、殆ど全員がガーゼタオルを使用するようにした。回数が増えたことで、身体の清潔保持や皮膚疾患の早期発見・治療にも効果が見られている。

個別支援計画については、担当職員が中心となり利用者様の思い・意向を聴きながら計画書を作成している。実行に当たっては、誰が・何時・何処で・どうするのかを明記するようにした。また、変更する場合には、スタッフ全員統一した関わりが出来るように、変更した支援内容を詰所に掲示している。連絡書にて御家族にも近況報告と支援計画の経過報告をするとともに家族の同意も得ている。

今年度は早期から換気や手洗いなど予防に努めた結果、利用者様にはインフルエ

ンザ等の感染症の流行もなく、活動や外出・面会の制限がなかったため、希望外出・短時間の買い物などの活動も実施することができた。

平成 24 年の九州北部豪雨にて、千歳の移転が決まり、従来の定員 80 名から、それぞれ入所定員 40 名に分割することも決定し、平成 26 年の 7 月末には完成の予定である。利用者様にとっては楽しみである反面、全員 1 人部屋と言うことで不安な方もおられる。誰と一緒にいるか等、期待と不安なところも見受けられる。新しい園生活の充実に向けて、準備を進めているところである。

園での行事(開園記念日・盆踊り大会・納涼祭・運動会・餅つき・忘年会等)の他に、毎月の誕生会や千歳芸術部による製作物作成、書初めなどの活動も行い、希望外出にて野球やラグビー観戦や買い物等も行っている。

施設を利用される方の身体面での重度化・加齢に伴う医療的ケアの増加、突然の状態の変化等、常に利用者様の状態の把握に努め、緊張感を持って効率的で質の高いサービスを提供し、安全に安心した生活を支援するために、スキルアップ・ケアの質の向上に努めて行きたい。

(2) 訓練援助課

利用者様 81 名に対し、作業療法士 1 名・理学療法士 1 名・機能訓練員 1 名で実施、利用者様一人当たりの訓練回数は、身体状況によって週 1~2 回実施しており、個別に充実した訓練内容となるように援助を行った。

訓練内容については、利用者様の状態に合わせ体力・筋力の維持、ROM の維持、残存機能維持、痛みの軽減を目的とした内容を実施している。実施内容については下記の通りである。また、スキルスクリーンやスキルギャラリー等の作品制作を行うことで手指巧緻性の維持を図りながら、作品を作る楽しさや完成した時の喜びを味わう事が出来るように訓練内容に組み入れている。高齢化に伴い体力、筋力の低下や身体の痛みを訴える利用者様が増しており、体力・筋力低下の著しい利用者様には、訓練時間以外に自主訓練を行い、体力の維持に努め、身体の痛みを訴える利用者様に対しては、マッサージやホットパックを施行し、痛みの軽減に努めた。訓練を行いながらより多くのコミュニケーションを取り、悩みや思いを聞くことで、ストレスの解消や精神的にも落ち着くことができるように援助を行っている。

車椅子管理、補装具の交付・修理申請手続きについては、引き続き訓練援助課で行っている。

(訓練内容)

- 関節可動域維持訓練
- 体力、筋力維持訓練(腕立て、腹筋、背筋、スクワット、バンド等)
- 巧緻動作訓練(紐通し、パズル、はめ絵等)
- 姿勢保持訓練(立位、座位バランス等)
- 日常生活動作訓練(車椅子移動、移乗動作等)
- 歩行訓練(杖歩行、歩行器歩行)
- 趣味活動(スキルスクリーン作製、ゲーム、野球等)
- リラクゼーション(上田法、マッサージ、ホットパック、プロンキーパー等)
- 電動車椅子操作練習

移動状況(但し、園内での移動)は次の通りである。

	ストレッチャー 車椅子 全介助	車椅子		電動 車椅子	歩行器	歩 行			計
		一部 介助	自立			装具 使用	独力歩行		
							一部 介助	自立	
男性	13	11	11	4	0	1	1	3	44
女性	6	17	7	3	1	1	1	1	37
計	19	28	18	7	1	2	2	4	81
		46					8		

(3) 生活部相談援助課

《概況》

平成25年度は、一般生活援助業務(食事、入浴、排泄、移動等)で関わりを深めながら、利用者様一人ひとりの一日の生活の流れ、身体面、精神面、対人面等を把握することに努めた。また、利用者様一人ひとりと個別活動や集団活動を通してコミュニケーションを図り、更なる信頼関係の構築にも努め、知能・発達検査も行った。

そして、情緒の安定を目的として行ってきた読み聞かせの活動を、より多くの方々に参加して頂きたいという思いから、実施場所を居室と食堂の二箇所にした。そして、前頭前野の活性化を図るためにカードのインプット等にも取り組んだ。加えて朝の日課として各居室に出向き、コミュニケーションを密にとることに努めた。

また、ストレスがたまると訴えられた方や朝の申し送りでも情緒不安定の言動があった方に対して、不定期になるがストレス発散の目的でドライブ外出を試みた。

(援助内容)

- ① 面談活動 (カタルシス)
- ② 散歩療法 (発散、リフレッシュ)
- ③ 表現療法 (遊び活動、自己表現、生きがい、興味拡大、信頼関係)
- ④ ポジショニング (リラクゼーション、慢性痛の軽減、QOL の拡大等)
- ⑤ 前頭前野活性化法 (読み聞かせ、公文カード、ドリル等)
- ⑥ 介護全般
- ⑦ メンタルヘルス (ドライブ外出、カウンセリング)
- ⑧ 環境整備、その他

(心理検査)

発達検査 (0 回) 知能検査 (5 回) 性格検査 (0 回)

(4) 生活部看護課

障害者支援施設において利用者様の高齢化、障害の重度化・重複化により、疾病の多様化や加齢に伴う疾患が再燃するケースも増えており、園内で医療行為を必要とする利用者様が徐々に増加する傾向にあり、対策が必要となっている。

また、合併症を伴う生活習慣病 (糖尿病・高血圧・心臓病) の利用者様も多く、定期的な協力病院への受診も行っている。今後も協力病院との連携が不可欠である。特に今年 1～2 月は、誤嚥による肺炎患者が多く、嚥下機能の低下が見受けられた。食物の形体やトロミの硬さ等を調節し、個人に合った食べ物を提供して行かねばならないため、日頃からの摂食状況の観察が重要である。

《平成 25 年度》

① 院内感染症対策委員会の取り組み

本年度も平成 25 年 11 月より季節性・新型インフルエンザの予防対策として、職員の手洗い励行・出勤時の体温測定・面会者への手指消毒・体温測定・マスク着用・感染症アンケートの実施等の取り組みを行った。また、蛍光マーカーを使用した手洗いの実施体験により手洗いの周知徹底を行った。『外部より感染症を持ち込まない・持ち込ませない』ことへの意識も定着し、利用者様の感染症発生は無かった。

※ 一部の地域でインフルエンザ A 型・B 型が流行し、職員家族の罹患により、タミフルを予防内服し、マスク着用して勤務された職員が 1 名いた。

手洗いパトロール報告 (5 月・9 月・1 月)

- ② 今年度も季節性インフルエンザワクチン接種を実施した。
(11 月に利用者・職員)
- ③ 平成 25 年度福岡県喀痰吸引等研修事業 (特定の者) の講師依頼あり出張 1 名
基本研修 : (講義) 平成 25 年 7 月 15・18・19・22 日
(演習) 平成 25 年 8 月 4・6・7・8 日
(北九州国際会議場・石橋文化ホール・飯塚研修開発センター・南近代ビル)
- ④ 実地研修 : 介護職員 1 名 (口腔吸引・鼻腔吸引・胃瘻) 9 月 11 日実施
- ⑤ 第 41 回 障害者支援施設研究大会 出張 1 名 平成 26 年 2 月 12 日～14 日
第三分科会 意見発表
テーマ : 「医療的ケアに関する看護職と介護職の連携の実際と今後の課題」

今後も利用者様の健康管理・衛生管理を行いサービス向上に努めて行きたい。

☆疾病表は、別表 (5-1) ～ (5-7) の通りである。

別表 (1)

地域別入退園者状況表

平成 25 年度

	区分 福祉名	前年度末 人員	本年度 入所人員	本年度 退所人員	本年度末 人員	性 別		備 考
						男性	女性	
町 村 福 祉 関 係	志 免 町	1			1	0	1	
	黒 木 町	1			1	0	1	
	上 陽 町	0			0	0	0	
	大 木 町	2			2	1	1	
	大 和 町	1			1	1	0	
	津 屋 崎 町	0			0	0	0	
	福 間 町	0			0	0	0	
	那 珂 川 町	0			0	0	0	
	星 野 村	0			0	0	0	
	矢 部 村	0			0	0	0	
	苅 田 町	1			1	1	0	
	筑 前 町	1			1	1	0	
	福 智 町	1			1	0	1	
	小 計	8	0	0	8	4	4	
市 福 祉 関 係	福 岡 市	7			7	4	3	
	北 九 州 市	5			5	4	1	
	大 牟 田 市	4			4	2	2	
	久 留 米 市	15			15	9	6	
	直 方 市	0			0	0	0	
	飯 塚 市	2			2	1	1	
	田 川 市	2			2	0	2	
	柳 川 市	6			6	2	4	
	宗 像 市	1			1	1	0	
	八 女 市	3		1	2	2	0	死亡退園
	筑 後 市	1			1	1	0	
	大 川 市	5			5	2	3	
	小 郡 市	1			1	0	1	
	筑 紫 野 市	3			3	2	1	
	春 日 市	2		1	1	0	1	死亡退園
	大 野 城 市	0			0	0	0	
	糸 島 市	1			1	1	0	
	山 田 市	0			0	0	0	
	行 橋 市	0			0	0	0	
	豊 前 市	0			0	0	0	
	中 間 市	0			0	0	0	
	古 賀 市	0			0	0	0	
う き は 市	6			6	2	4		
朝 倉 市	5			5	4	1		
みやま市(旧山川町)	4			4	3	1		
小 計	73	0	2	71	40	31		
県 外	鳥 栖 市	1			1	0	1	
	日 田 市	1			1	0	1	
	佐 賀 中 部	0			0	0	0	
	佐 賀 市	0			0	0	0	
小 計	2	0	0	2	0	2		
合 計	83	0	2	81	44	37		

別表 (2)

週 生 活 表

千歳療護園

曜日	月	火	水	木	金	土	日
時間							
6:30	起床 着替・洗面・移動						
7:40	朝食 移動・排泄・歯磨き						
9:00	(朝礼・申し送り) 掃除・移動						
9:30	シーツ 枕カバー交換	寝具交換出し			包布交換	尿器等消毒	園内消毒
11:00	訓練 出張散髪	訓練 利用者買物 暖和会	訓練 入浴 (女性)	訓練 ちとせ会 職員懇談会 体重測定	訓練 外出等	ちとせ会 園長懇談会 (生花)	自由時間
12:00	昼食 移動・排泄・歯磨き						
13:30							
14:00	訓練 入浴 (女性)	訓練 入浴 (男性)	療育会議 カラオケ 定期診察	訓練 入浴 (男性)	訓練 入浴 (女性)	入浴 (男性)	自由時間
15:00			訓練				
16:00	酒肴会				酒肴会 誕生会		
16:50	移動 排泄 (夜勤者へ申し送り)						
17:00	夕食						
18:00	歯磨き (自立者一部)、後片付け						
19:00	着替え、自由時間						
20:00	歯磨き (介助者)						
	歯磨き (自立者)						
21:00	消 灯						
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 月 曜 日 酒肴会 ○ 火 曜 日 利用者買物(隔週)、暖話会(第2週)、 ○ 水 曜 日 定期診察(男女月1回)、療育会議(外部講師・カンファレンス・園長講義) ○ 木 曜 日 ちとせ会・職員懇談会(第2週) ○ 金 曜 日 酒肴会、誕生会 (第3週) ○ 土 曜 日 利用者と園長懇談会(最終土曜日)、生け花(第3週) ○ 月 行 事 体重測定(第1木曜、但し祭日を除く)、出張散髪 (最終月曜日) ○ 隔 月 防災教育・避難訓練・味彩クラブ 						

別表 (3)

年間実施行事記録表

平成 25 年度

月	日	行 事 等	月	日	行 事 等
4	16	ドライブ外出	10	10	全国身障者スポーツ大会 (～13日)
	17	開園記念日		19	生け花
	22	★希望外出 (久留米ゆめタウン 30日)		20	合同レクリエーション
	24	★ナイター観戦		23	☆オカリナ演奏会
		23		★希望外出 (筑紫野イオンモール)	
5	2	サニックスワールドデュースラグビー観戦	11	9	モンゴル少年少女国立合奏団公演
	10	★希望外出 (久留米ゆめタウン)		16	生け花・虫追い祭り来園
	13	★希望外出 (カラオケ・買物)		19	★希望外出 (久留米ゆめタウン)
	19	福岡県身障者スポーツ大会		20	誕生会
	27	☆買物外出 (DS イズミ 30日)			
6	3	★希望外出 (久留米ゆめタウン 13・17・20)	12	12	浮羽消防署指導避難訓練 餅つき慰問
	5	★希望外出 (パチンコ)		18	誕生会
	24	★希望外出 (久留米ゆめタウン 25・28)		22	生け花
		25		忘年会	
7	5	☆買物外出 (DS イズミ)	1	9	どんど焼き
	20	★希望外出 (AKB48 コンサート)		15	誕生会
	20	生け花		18	生け花
	25	盆踊り、花火大会			
8	17	誕生会	2	15	生け花
	21	生け花		16	★希望外出 (福岡カスタムショー2014)
	28	納涼祭		19	誕生会
9	10	☆ナイター観戦 (招待)	3	15	生け花
	18	誕生会		18	本佛寺より慰問
	21	生け花		19	誕生会

(参) 実習生受け入れ状況

(九州大谷短期大学・福祉学科)

実習期間	人数
5月 13日～ 6月 6日	4名
11月 5日～11月 19日	4名

(平岡介護福祉専門学校)

実習期間	人数
5月 21日～ 6月 11日	2名
11月 27日～12月 20日	2名

* 介護等体験実習

大 学 名	実習期間	人数
福岡女子大学	5日間×1名	5名
田主丸中学校福祉体験学習 (4名×2日間)		8名

◎ 延べ人数 181名 (中学生を除く)

別表(4)

日常生活動作の介護状況

生活動作	区分	男性	女性	全体
食 事	自 立	3	7	10
	一部介助	25	22	47
	全介助	16	8	24
起 坐	自 立	14	12	26
	一部介助	6	9	15
	全介助	24	16	40
立ち上がり	自 立	7	5	12
	一部介助	7	8	15
	全介助	30	24	54
排 泄	自 立	6	4	10
	一部介助	10	11	21
	全介助	28	22	50
更 衣	自 立	9	4	13
	一部介助	6	9	15
	全介助	29	24	53
入 浴	自 立	0	0	0
	一部介助	8	0	8
	全介助	36	37	73
歩 行	自 立	2	2	4
	一部介助	3	5	8
	全介助	39	30	69
寝返り	自 立	22	19	41
	一部介助	6	6	12
	全介助	16	12	28
車椅子使用	自 立	10	7	17
	一部介助	12	17	29
	全介助	17	9	26

生活動作	区分	男性	女性	全体	
夜間処遇	排便排尿	1回	5	1	6
		2回	9	12	21
		3回	10	10	20
		5回	5	2	7
		小計	29	25	54
	服 薬	1回	26	17	43
		2回	11	17	28
		3回	0	1	1
		小計	37	35	72
	体位変換	1回	3	1	4
		3回	5	6	11
		4回	1	0	1
		8回	0	1	1
小計		9	8	17	
おむつ使用	昼・夜	8	4	12	
	夜間のみ	5	16	21	

- ・食事⇒配膳された状態で、魚の骨取りも含む。
- ・排泄⇒排泄後の処置、女性は生理処理も含む。
- ・更衣⇒ホック等、着脱が行い易く改良した衣類を使用して。
- ・入浴⇒一部自立とは、浴槽の中に独力で入っていることが出来たり、洗体の一部が出来る事。

別表 (5-1) 平成 25 年度 疾病表 — 外来分 (ゆうかり外来) 4 月～9 月

病名	4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月		合 計	
	人 数	受 診 回 数	人 数	受 診 回 数	人 数	受 診 回 数	人 数	受 診 回 数	人 数	受 診 回 数	人 数	受 診 回 数	人 数	受 診 回 数
定期処方	74	74	74	74	75	75	75	75	75	75	75	75	448	448
癲癇指導	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	204	204
女性診察	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	222	222
男性診察	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	276	276
上気道炎・咽頭炎			1	1			3	3	19	22	1	1	24	27
気管支炎	2	2	3	3			1	1	3	4			9	10
アレルギー性鼻炎	1	1											1	1
喘息性気管支炎									1	2			1	2
嚥下障害	2	2											2	2
びまん性汎細気管支炎	1	3							1	1	1	1	3	5
口内炎	1	1			1	1							2	2
誤嚥性肺炎	1	1					1	1					2	2
尿路感染症	2	3	1	1	1	2					2	2	6	8
歯痛・歯肉炎									2	2	1	1	3	3
不定愁訴											1	1	1	1
結膜炎							2	2					2	2
慢性中耳炎	1	1											1	1
胸部痛	1	1									1	1	2	2
てんかん			2	2	5	5	3	3					10	10
不安神経症	1	1											1	1
食欲不振			1	1									1	1
排尿障害			1	1									1	1
化膿創・膿瘍	1	1	2	2									3	3
眼内異物	1	1											1	1
腹痛			1	1			1	1	1	1			3	3
嘔気			1	1									1	1
口唇ヘルペス			3	3			1	1					4	4
循環障害					1	1							1	1
急性胃腸炎							1	1					1	1
誤嚥							1	3					1	3
鼻出血							1	1					1	1
脱水							1	3					1	3
(合計)	206	209	207	207	200	201	208	212	219	224	199	199	1239	1252

別表（5-1） 平成25年度 疾病表 — 外来分（ゆうかり外来） 10月～3月

病名	10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計	
	人数	受診回数	人数	受診回数	人数	受診回数	人数	受診回数	人数	受診回数	人数	受診回数	人数	受診回数
定期処方	74	74	74	74	74	74	73	73	73	73	72	72	440	440
癲癇指導	34	34	34	34	34	34	37	37	37	37	37	37	213	213
女性診察	37	37	37	37	37	37	45	45	45	45	44	44	245	245
男性診察	46	46	46	46	46	46			25	32			163	170
上気道炎・咽頭炎			1	1	10	15	7	10			5	5	23	31
気管支炎			3	5	2	2	2	2	4	4	3	3	14	16
アレルギー性鼻炎			1	1			1	1			1	1	3	3
喘息性気管支炎							1	1	1	2			2	3
肺炎					1	1							1	1
びまん性汎細気管支炎般	5	5	1	1	1	1							7	7
不安神経症	1	1											1	1
蜂窩織炎									1	5			1	5
不眠症	1	1					1	1					2	2
脱力感	1	1											1	1
アレルギー性結膜炎			1	1			1	1			3	3	5	5
口唇ヘルペス			1	1			1	1					2	2
尿路感染症	2	3	1	1			2	3	1	1			6	8
消化管出血疑い									1	1			1	1
口内炎・口腔内アフタ	1	1							1	1			2	2
腹痛	2	2					2	2			1	1	5	5
胃痛・胃炎	1	1									1	1	2	2
花粉症			1	1									1	1
尿閉									1	1			1	1
歯痛・歯肉炎									2	3	4	4	6	7
胸部痛			2	2									2	2
頭痛・片頭痛	1	1					1	1					2	2
低血圧症									1	1			1	1
てんかん			5	5	4	4			2	2			11	11
痔出血					1	1							1	1
精神不安定					1	1					2	2	3	3
低Na血症			1	1									1	1
肥満	1	1											1	1
眼瞼炎	1	1											1	1
膀胱炎			1	1			1	1	1	1			3	3
嚥下障害			1	1									1	1
不安症状							1	1					1	1
腸閉塞							1	1					1	1
高脂血症											2	2	2	2
MRSA 保菌者											1	3	1	3
(合計)	208	209	211	213	211	216	177	181	196	209	176	178	1179	1206

別表 (5-2) 平成 25 年度 疾病表 — 外来分 (ゆうかり外来) 4 月~9 月

病名	4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月		合 計	
	人 数	受 診 回 数	人 数	受 診 回 数	人 数	受 診 回 数	人 数	受 診 回 数	人 数	受 診 回 数	人 数	受 診 回 数	人 数	受 診 回 数
肩関節周囲炎			1	1			1	1					2	2
右第一基節部骨折											1	1	1	1
便秘症	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	6	7
逆流性食道炎									1	1	1	1	2	2
胃痛・胃炎・胃潰瘍													0	0
内外痔核・裂肛・痔瘻													0	0
爪剥離											1	1	1	1
蜂窩織炎							1	1	1	3			2	4
筋力低下					1	1							1	1
筋肉痛			2	2									2	2
打撲症			1	1	1	2	1	1					3	4
挫創・切創・擦過創			1	1			2	2					3	3
頸椎症			1	1									1	1
巻爪 (爪周囲炎)			1	1									1	1
眼瞼炎					2	2	2	2					4	4
角化症	1	1	2	2	3	3			2	2	3	3	11	11
帯状疱疹													0	0
白癬・湿疹・皮膚炎	10	13	13	17	16	20	11	13	13	14	18	21	81	98
皮膚潰瘍					1	1							1	1
皮膚掻痒症									1	1	2	2	3	3
接触性皮膚炎							1	1					1	1
皮脂カンジタ症	2	2	1	1	4	4	1	1	2	2	4	4	14	14
尋常性挫創・毛蒼	2	2					1	1			1	1	4	4
皮膚欠乏症	12	12	19	19	12	12	10	10	19	20	12	12	84	85
先天性魚鱗癬紅皮症	1	1					1	1					2	2
脂漏性湿疹・皮膚炎			3	3	3	3			3	3	3	3	12	12
皮膚びらん			1	1					1	1			2	2
円形性脱毛症					1	1							1	1
毛嚢炎			1	1			1	1	1	1			3	3
(合 計)	29	32	48	52	45	50	34	36	45	50	47	50	248	270

別表 (5-2) 平成 25 年度 疾病表 — 外来分 (ゆうかり外来) 10 月~3 月

病名	10 月		11 月		12 月		1 月		2 月		3 月		合 計	
	人 数	受 診 回 数	人 数	受 診 回 数	人 数	受 診 回 数	人 数	受 診 回 数	人 数	受 診 回 数	人 数	受 診 回 数	人 数	受 診 回 数
便秘症	1	1	1	1	1	1	3	4	1	1	4	4	11	12
内外痔核・裂肛・痔瘻													0	0
蜂窩織炎													0	0
逆流性食道炎	2	3			1	1							3	4
排尿障害													0	0
圧迫骨折			1	1									1	1
筋力低下													0	0
筋肉痛	1	1	1	1							2	2	4	4
挫創・切創・擦過創			1	1					1	1			2	2
肩関節周囲炎													0	0
疼痛 (上下肢)			1	1							1	1	2	2
角化症	1	1	2	2	3	3	1	1	1	1	4	4	12	12
打撲傷	1	1									1	1	2	2
腰痛症	2	2											2	2
関節痛・							2	2			2	2	4	4
毛嚢炎	1	1					1	1					2	2
化膿創・膿瘍			2	3									2	3
白癬・湿疹・皮膚炎	15	21	16	18	18	21	14	14	16	16	13	13	92	103
皮膚潰瘍													0	0
皮膚掻痒症					2	2					1	1	3	3
接触性皮膚炎	1	1											1	1
皮膚カンジダ症	2	2	1	1	4	4	1	1			5	5	13	13
皮膚欠乏症	11	11	18	18	12	12	11	11	20	20	12	12	84	84
先天性魚鱗癬紅皮症	1	1					1	1					2	2
脂漏性湿疹・皮膚炎	1	1	5	5	3	3	2	2			2	2	13	13
円形脱毛症													0	0
掻破性湿疹													0	0
貨幣状湿疹													0	0
尋常性挫創・毛創	3	3			1	1	3	3			1	1	8	8
褥瘡													0	0
皮膚ピラン	2	2			1	1					1	1	4	4
陰部膿瘍													0	0
臀部潰瘍													0	0
巻爪													0	0
虫刺症					1	1							1	1
(合 計)	45	52	49	52	47	50	39	40	39	39	49	49	268	282

別表 (5-3) 平成 25 年度 疾病表 — 外来分 (ゆうかり外来) 4 月~9 月

病 名	4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月		合 計	
	人 数	受 診 回 数	人 数	受 診 回 数	人 数	受 診 回 数	人 数	受 診 回 数	人 数	受 診 回 数	人 数	受 診 回 数	人 数	受 診 回 数
健康診断検査 (採血・採尿)	14	14	12	12	14	14	14	14	14	14	14	14	82	82
EKG	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	42	42
胸部 X-P	7	7	8	8	7	7	7	7	7	7	7	7	43	43
EEG			1	1	1	1			1	1	1	1	4	4
一般検血 (生化学)													0	0
一般検尿	2	3					2	2			2	2	6	7
便潜血	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	42	42
血中濃度 (抗癌薬)			11	11	15	15							26	26
臨時採血 (CBC, CRP, その他)	1	1	1	1			1	2					3	4
Fe, UIBC, フェリチン													0	0
ヘモグロビン A1, A1c													0	0
培養 (尿, 咽頭, 鼻腔, 便)							1	1					1	1
血中アンモニア														
HCV-Ab, HCV-Ag, HCV RNA														
入園時検査														
百日咳抗体価														
アレルギー検査														
(合 計)	38	39	47	47	51	51	39	40	36	36	38	38	249	251

別表 (5-3) 平成 25 年度 疾病表 — 外来分 (ゆうかり外来) 10 月~3 月

病 名	10 月		11 月		12 月		1 月		2 月		3 月		合 計	
	人 数	受 診 回 数	人 数	受 診 回 数	人 数	受 診 回 数	人 数	受 診 回 数	人 数	受 診 回 数	人 数	受 診 回 数	人 数	受 診 回 数
健康診断検査 (採血・採尿)	13	13	12	12	14	14	14	14	13	13	14	14	80	80
EKG	7	7	7	7	7	7					14	14	35	35
胸部 X-P	7	7	6	6	14	14			1	1	14	14	42	42
EEG	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	6	6
一般検血 (生化学)													0	0
一般検尿	2	4			2	2	3	4	2	2	1	3	10	15
便潜血	7	7	6	6	7	7					7	7	27	27
血中濃度 (抗癌薬)			10	10	15	15	1	1					26	26
臨時採血 (CBC, CRP, その他)			3	3					2	3	4	4	9	10
インフルエンザ予防注射														
百日咳抗体														
培養 (尿, 咽頭, 鼻腔, 便)														
HCV-Ab, HCV-Ag, HCV RNA														
ロタウイルス検査														
アデノウイルス検査														
ノロウイルス検査														
入園時検査														
(合 計)	37	39	45	45	60	60	19	20	19	20	55	57	235	241

別表 (5-4) 平成 25 年度 疾病表 — 入院分 (ゆうかり外来) 4 月～9 月

病院名	4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月		合 計	
	人 数	入院 日数	人 数	入院 日数	人 数	入院 日数	人 数	入院 日数	人 数	入院 日数	人 数	入院 日数	人 数	入院 日数
ゆうかり・なかよし寮	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ゆうかり・おひさま寮	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(合 計)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

別表 (5-4) 平成 25 年度 疾病表 — 入院分 (ゆうかり外来) 10 月～3 月

病院名	10 月		11 月		12 月		1 月		2 月		3 月		合 計	
	人 数	入院 日数	人 数	入院 日数	人 数	入院 日数	人 数	入院 日数	人 数	入院 日数	人 数	入院 日数	人 数	入院 日数
ゆうかり・なかよし寮	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ゆうかり・おひさま寮	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(合 計)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

別表 (5-5) 平成 25 年度 疾病表 — 入院分 4 月～9 月

病院名	4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月		合 計	
	人 数	入院 日数	人 数	入院 日数	人 数	入院 日数	人 数	入院 日数	人 数	入院 日数	人 数	入院 日数	人 数	入院 日数
久留米大学病院														
田主丸中央病院	5	26	4	72	1	30	2	31	5	68	1	2	18	229
くるめ病院														
福大筑紫病院	1	5											1	5
啓心会病院														
(ゆうかり以外 入院合計)	6	31	4	72	1	30	2	31	5	68	1	2	19	234

別表 (5-5) 平成 25 年度 疾病表 — 入院分 10 月～3 月

病院名	10 月		11 月		12 月		1 月		2 月		3 月		合 計	
	人 数	入院 日数	人 数	入院 日数	人 数	入院 日数	人 数	入院 日数	人 数	入院 日数	人 数	入院 日数	人 数	入院 日数
久留米大学病院														
田主丸中央病院	1	12	3	10	4	64	2	16	8	99	5	35	23	236
福大筑紫病院														
聖マリア病院														
総合せき損センター														
(ゆうかり以外 入院合計)	1	12	3	10	4	64	2	16	8	99	5	35	23	236

別表 (5-6) 平成 25 年度 疾病表 — 外来分 (ゆうかり外来) 4 月~9 月

病名	4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月		合 計	
	人 数	受診 回数	人 数	受診 回数	人 数	受診 回数	人 数	受診 回数	人 数	受診 回数	人 数	受診 回数	人 数	受診 回数
久留米大学病院			2	2	1	1							3	3
田主丸中央病院	12	29	9	26	6	21	9	22	10	23	10	25	56	146
聖マリア病院			1	1									1	1
古賀歯科	2	2	2	4	2	4	1	1	1	1			8	12
林田耳鼻咽喉科医院	2	4	2	5	3	9	3	14	4	8	2	5	16	45
田中皮膚科													0	0
筑後吉井こころホスピタル	3	4	2	2	2	2	2	2	2	2			11	12
津村眼科													0	0
くるめ病院			1	1									1	1
境泌尿器科													0	0
深川レディースクリニック													0	0
たなか病院	1	1	1	1	1	1			1	1			4	4
久留米第一病院													0	0
白石医院	1	2	1	1									2	3
なご整形外科医院	2	2	3	3	3	3	2	3	1	1	2	2	13	14
久留米大学医療センター													0	0
ぜんどうじ整形外科													0	0
(ゆうかり以外外来合計)	23	44	24	46	18	41	17	42	19	36	14	32	115	241

別表 (5-6) 平成 25 年度 疾病表 — 外来分 (ゆうかり外来) 10 月~3 月

病名	10 月		11 月		12 月		1 月		2 月		3 月		合 計	
	人 数	受診 回数	人 数	受診 回数	人 数	受診 回数	人 数	受診 回数	人 数	受診 回数	人 数	受診 回数	人 数	受診 回数
久留米大学病院														
田主丸中央病院	11	29	6	17	10	24	13	30	15	30	9	17	64	147
聖マリア病院													0	0
古賀歯科											2	3	2	3
林田耳鼻咽喉科医院	2	6	2	5	2	5	3	7	2	13	2	4	13	40
田中皮膚科													0	0
筑後吉井こころホスピタル	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1			5	6
津村眼科													0	0
くるめ病院													0	0
小野整形外科													0	0
深川レディースクリニック													0	0
たなか病院	1	3	1	2	1	1							3	6
なご整形外科	2	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	7	8
久大医療センタ													0	0
ぜんどうじ整形外科													0	0
井上耳鼻咽喉科			1	1									1	1
境泌尿器科	1	1											1	1
(ゆうかり以外外来合計)	18	43	12	27	15	33	18	39	19	45	14	25	96	212

別表（5-7） 平成25年度 疾病表 — 外来分（ゆうかり外来） 4月～9月

月別 病名	4月		5月		6月		7月		8月		9月		合 計	
	人 数	受診 回数	人 数	受診 回数	人 数	受診 回数	人 数	受診 回数	人 数	受診 回数	人 数	受診 回数	人 数	受診 回数
皮膚科処置	67	805	68	860	66	814	65	828	67	789	67	832	400	4928
包交処置	3	85	4	94	3	74	3	69			4	77	17	399
湿布貼付	2	3	3	7			4	9	3	6	2	3	14	28
便秘（浣腸）	24	99	19	95	21	89	22	99	22	94	25	91	133	567
点鼻	1	30	1	31	1	30	1	31	1	28	1	30	6	180
点眼	8	239	8	228	7	210	8	220	10	243	10	287	51	1427
血压測定	13	108	13	107	12	103	13	112	13	105	13	115	77	650
排気					1	1			1	10	1	30	3	41
坐薬挿肛	15	159	16	162	15	163	14	168	14	143	15	187	89	982
耳処置	7	42	5	28	6	74	5	67	7	60	8	64	38	335
注腸	2	18	2	18	2	16	2	18	2	11	1	8	11	89
吸引			1	4			1	4	1	6	2	9	5	23
吸入			4	97	4	120	4	124	7	137	5	150	24	628
園内歯科	6	6	6	6	1	14	9	9	8	8	8	8	38	51
点滴							1	8					1	8
（合 計）	148	1594	150	1737	139	1708	152	1766	156	1640	162	1891	907	10336

別表（5-7） 平成25年度 疾病表 — 外来分（ゆうかり外来） 10月～3月

月別 病名	10月		11月		12月		1月		2月		3月		合 計	
	人 数	受診 回数	人 数	受診 回数	人 数	受診 回数	人 数	受診 回数	人 数	受診 回数	人 数	受診 回数	人 数	受診 回数
皮膚科処置	67	861	67	863	65	716	65	843	64	712	64	827	392	4822
包交処置	7	128	3	64	1	21	1	25	27	117	2	41	41	396
湿布貼付							2	2					2	2
便秘（浣腸）	24	111	25	115	27	137	29	148	27	117	22	141	154	769
点鼻	1	31	1	30	1	31	1	31	1	28	1	31	6	182
点眼	8	242	8	236	8	236	8	236	8	175	8	225	48	1350
血压測定	13	108	13	104	13	112	13	110	13	99	13	112	78	645
園内歯科	7	7	7	7	9	9	10	10					33	33
坐薬挿肛	14	162	13	150	15	168	16	195	17	177	13	194	88	1046
耳処置/点耳	6	42	8	51	6	66	7	93	7	93	7	80	41	425
排気	1	31	1	30	1	31	1	31	1	28	1	31	6	182
注腸	1	9	1	9	1	9	1	9	1	8	1	8	6	52
吸入	5	155	5	148	5	135	5	143	6	133	5	155	31	869
吸引	1	4	2	7	2	7	2	6	2	6	1	7	10	37
（合 計）	155	1891	154	1814	154	1678	161	1882	174	1693	138	1852	936	10810

障害者支援センター ちとせ

「支援センター」は、障害者支援施設千歳療護園の通所による日中活動（生活介護）として事業を実施した。現在、久留米市、うきは市、朝倉市、朝倉郡の一部を事業実施地域としてサービスを提供している。

平成26年3月31日現在

支援センター利用契約者様は、18名で、内訳は下記の通りである。

久留米市	10名
うきは市	6名
朝倉市	1名
朝倉郡	1名

朝倉郡からの利用者様1名は医療行為が常時必要になり、平成25年12月よりゆうかり医療療育センターを利用されている。支援センターとの契約は、ご家族様の意向もあり継続している。

今年度は、延べ1,800名

久留米市	937名
うきは市	621名
朝倉市	131名
朝倉郡	111名

の方が利用され、1日平均7.5名の利用があった。

延べ利用人数は前年と比較すると173名の増である。市町村別では朝倉郡の利用者様が延べ27名の減、久留米市利用者様、延べ141名、うきは市利用者様、延べ59名の増となった。

利用者状況として、本年度は2月までの契約者様は19名であったが、うきは市の利用者様1名が転倒による怪我や疾病の再発により2月末で終了され、契約者様が18名になった。また、怪我や疾病（再発等）で入院あるいは自宅療養されると、利用再開までに長い時間を費やす傾向が窺えた。

現在、19歳から75歳（男性10名・女性8名）の方が利用されており、平均年齢47歳（男性49歳・女性45歳）となっている。また、18名中12名の方（全体の66%）が車椅子を使用されている。

※痰吸引・経管栄養は基本研修・実地研修を終了した介護職員が、「特定の方」（3名）に対し利用者様の意向や必要に応じて看護職員と連携し実施している。

- ・胃ろう注入は1名の利用者様に対し92回実施。
- ・たん吸引は1名の利用者様に対し2回実施。

☆障害程度区分、主たる起因疾患別年齢表は、別表(A)の通りである。

☆ 月別・町別利用者数表は、別表(B)の通りである。

活動においては、季節に合った創作活動や行事を計画（誕生会、こいのぼり、七夕飾り、季節の花、書初め、節分、お雛様作り等）し実施した。また今年度も、東日本大震災の更なる復興を願って、利用者様同士で協力し合い、キャップアートの制作に取り組んだ。完成した作品は、耳納学園の展示即売会会場に展示し、利用者様にとって大きな励みとなった。その他、個別的な機能訓練等にも意欲的に取り組まれ、また、なぞなぞやクイズ、トランプゲーム等も好評であった。外出活動では、送迎時間の長時間化や個々の身体事情により、ご希望通りの外出がうまく出来ない状況であったが、利用者様方の協力（入浴を午前中に行う・午前と午後に分ける等）を得て、小グループでの外出活動（ドライブ、見物、買い物）が実施でき、とても喜んで頂いた。今後も利用者様方の生きがいや、生活意欲の向上を考え、QOLが高められるよう更なる取り組みの工夫が必要と考えている。また、医療的行為が必要な利用者様への対応・対策を万全(安全・安心)にする必要があり、看護スタッフとの連携が重要になっている。

日中活動の支援内容

○身体介護 食事、入浴、排泄、移動、移乗介助

○創作的活動、文化的活動、社会適応訓練（個別活動・グループ活動）

<手工芸>

- 折り紙細工（各種） 折り紙
- 小物づくり ブローチ 紙皿 編み物
- 造形（梅・桜） 紙、布、紙テープなど利用 キーホルダー
- スキルギャラリー 、ジグソーパズル

<習字、読み、書き> 毛筆、読み書き練習、模写 作詞 詩

<制作> キャップアート貼り絵 自由画、ぬり絵など

<外出> 見学、買い物、ドライブなど

○機能訓練

日常生活動作訓練、四肢他動・抵抗運動、器具運動、積み木、紐通しなど

○スポーツ、趣味娯楽活動

風船バレー、ポケネット、輪投げ、ナンバーストライク、玉入れ、カラオケ、トランプ、オセロ、ジェンガ 合唱など

○更生相談

利用者の要望や必要に応じて医療、福祉、介護等の相談を行っている。

別表 (A) 平成 25 年度

障害程度区分表

	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
19 歳以下				1		1
20～29				1	3	4
30～39					2	2
40～49			3			3
50～59						
60～64	2	1	2			5
65 歳以上		2			1	3
計	2	3	5	2	6	18

主たる起因疾患別年齢表

起因疾患 年齢	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	合 計
	脳 性 ま ま ひ	脳 血 管 障 害	脊 髄 損 傷	頭 部 外 傷	特 定 疾 病	特 定 疾 患	リ ウ マ チ	進 行 性 筋 萎 縮 症	そ の 他	
(1) 19 歳以下									1	1
(2) 20～39	1	1							4	6
(3) 40～64	1	2	1						4	8
(4) 65 歳以上	1	1			1					3
合 計	3	4	1		1				9	18

別表 (B) 平成 25 年度

月別・市別利用者数表

支援センター

月	利用 日数	利用 者数	1 日 平 均	久留米市			うきは市			朝倉市		朝倉郡	
				全 体	男 性	女 性	全 体	男 性	女 性	全 体	女 性	全 体	男 性
4	21	162	7.7	72	33	39	64	30	34	12	12	14	14
5	21	165	7.9	76	37	39	60	28	32	12	12	17	17
6	20	167	8.4	84	43	41	58	28	30	9	9	16	16
7	22	183	8.3	96	50	46	56	30	26	13	13	18	18
8	19	159	8.4	86	45	41	50	26	24	9	9	14	14
9	19	146	7.7	79	38	41	44	22	22	9	9	14	14
10	22	159	7.2	82	36	46	49	21	28	11	11	17	17
11	20	138	6.9	73	33	40	53	27	26	11	11	1	1
12	19	132	6.9	71	33	38	50	27	23	11	11	0	0
1	19	126	6.6	69	32	37	46	20	26	11	11	0	0
2	19	129	6.8	74	34	40	44	18	26	11	11	0	0
3	20	134	6.7	75	34	41	47	23	24	12	12	0	0
計	241	1800	7.5	937	448	489	621	300	321	131	131	111	111

委員会報告

- 苦情解決委員会
- 安全管理委員会
- 防災対策委員会
- 院内感染対策委員会
- 広報委員会
- 療育会議運営委員会
- 福祉 QC 委員会

苦情解決委員会

《概況》

平成 25 年度苦情解決委員会は、施設ごとの定期委員会において、苦情・要望への対応・調整・解決等に取り組んだ。その取り組みを利用者様・保護者とのコミュニケーションの機会あるいは職員のサービス内容・サービス提供のあり方等の修正・改善・点検の手掛かりとしても活用した。

法人委員会としては、療育会議において、年 2 回の外部講師による人権研修会、11 月に虐待防止研修会、12 月に第三者委員への報告会、3 月に職員報告会を行った。特に第三者委員への報告会においては、守秘義務に配慮した上で苦情・要望記入票等を事前に第三者委員へ送付し、吟味して頂いた上で報告会を開催した。

《苦情・要望件数》 ー平成 25 年 1 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日ー

	ゆうかり医療療育センター	耳納学園	千歳療護園
1. 職員の言動・対応等に対する苦情	1	0	1
2. 施設への要望・苦情	10	0	1
3. 外部よりの苦情	0	0	1
4. 保護者（後見人）よりの苦情・要望	2	0	1
5. 利用者から保護者への苦情	0	0	0
6. 利用者から利用者への苦情	0	1	0

《基本的取り組み内容及び状況》

法人各施設は利用者様の心身の状態、年齢、施設機能により、苦情・要望の訴え方、内容、件数に違いがあるが、取り組みの過程でそれぞれ継続した課題を有している。

ゆうかり医療療育センターは、意思表示力や認識力に障害のある利用者様の権利擁護のために、園内後見人システムを独自に設置している。また、苦情を汲み上げる目的と、園内後見人として権利侵害への気づきを啓発する意味で、権利擁護専門委員会が各寮で取り組みを行っている。今年度も虐待防止のための自己チェックを行い、福祉施設職員としての認識の向上に努めた。また、施設移転後、外来利用者からの要望が多くきかれ、迅速な対応と、出来ないことに対しては、文書を掲示し、理解を求めた。

千歳療護園では、利用者様による危険を伴う車椅子の介助、介助場面での職員同士の私語についてという二つの苦情が挙げられた。一つ目は、生活の中で利用者様同士の信頼関係のもとに築きあがった介助であり、すべて中止にすることは難しいと思われたので、職員による安全配慮を心掛けた。二つ目は、慣れの中での介助になったと思われるので、今一度、利用者様中心のサービス提供を意識することを再確認した。最後に、久留米市からの聞き取り（施設して自身で自由に出入りできない部屋）に関しては、現在も身体拘束の廃止に向けた取り組みを継続して行っている。

耳納学園では、意見箱の確認を毎月月末に実施していたが、利用者様から「5 月 3 日に投書したが、何の対応もない」と 5 月 9 日に申し出があったため、意見箱を確認し、すぐに対応する。このことから、月末確認では早急な対応が出来ないため、意見箱の確認は当番を決めて毎日行うことにした。また、日頃からコミュニケーションをとり、気軽に申し出されるような雰囲気づくりに努めている。

《概況》

当委員会は、利用者様本位のサービスの質の向上を重点課題とし、利用者様と職員等が安全で安心して生活、または、良質な医療を受けられるように環境を整え、医療介護事故防止を図る事を目的とし、各施設において活動を行った。特に職員より提出されたアクシデント報告及びインシデント報告を基に、事故防止対策の具体的内容について検討し事故の再発、未然防止に努めた。ゆうかり医療療育センター、耳納学園においては、移転にともない新しい環境のもと安全面の配慮を心掛けた。法人全体においては10月に薬剤師による安全管理啓発の為の研修会を実施。3月に職員への全体報告会を行った。

《具体的取り組みと事故発生状況》

[ゆうかり]

* 毎月の委員会開催にて職員の安全に対する意識をたかめた。

* 7月・・・法人全体行事（盆踊り）において利用者様の移動時の安全面に
充分注意するよう実行委員会を通じ職員へ周知徹底してもらう。

* 1月・・・医療安全管理指針一部改正。

(事故報告件数)

転倒・・・25件	薬関係・・・17件	外傷・・・34件	
骨折・・・1件	その他・・・121件		合計・・・198件

[千歳]

* 職員の介護ミスに対し、アクシデントレポートとは別に「アクシデントにおける介護場面におけるの援助、介護ミスのふりかえりとして」と題し、直接介護ミスに繋がった経緯と反省、今後どのような心構えで援助、介助にあたるか等、本人自身に書いてもらいミスを繰り返さない様に意識する形を作った。誤薬に対しては、繰り返し誤薬を行った職員に対し反省文を書いてもらい、誤薬と言う重大なミスの認識をしてもらい、再度ミスがない様に意識づけた。

(事故報告件数)

転倒・・・3件	加害・・・3件	誤薬・・・3件	その他・・・4件	
				合計・・・13件

[耳納]

* 利用者様及び職員に対して転倒事故防止への意識向上をはかったが、利用者様の高齢化、移転に伴う環境の変化が昨年と比べ転倒事故が多く発生した。

(事故報告件数)

転倒・・・12件	転落・・・1件		合計・・・13件
----------	---------	--	----------

《概況》

社会福祉施設においては、各種の災害時の際に特に配慮を要する利用者様が入所されており、その防災対策を確立することが強く要請されている中、当委員会ではより良い防災対策を確立することを目的に活動を行った。その中でも火災時の対策に重点をおき、各施設（耳納・千歳・ゆうかり）定期的に避難訓練を実施し、常日頃から職員及び利用者様の防災に対する意識向上を図った。本年度は、ゆうかり学園が移転して新施設での避難訓練を実施するに当たり、浮羽消防署・久留米消防署善導寺出張所合同での総合訓練を12月に行っている。内容については、消火・避難訓練、消防車による放水訓練、消防署によるともだち寮2階からの負傷者の救出訓練等を行っている。

毎年開催されている浮羽消防署管内の屋内消火栓・消火器操法大会ではルールの変更（消火栓の部1チーム3名が2名での出場、消火器の部1チーム2名が1名での出場）に伴い、消火栓の部に各寮から出場（3チーム）、消火器の部には千歳療護園から1チームが出場している。

《避難訓練実施状況》

（耳納学園）

2回実施（内1回は3寮と合同で、夜間想定にて実施・・・10月）

（千歳療護園）

3回実施（内1回は消防署立会いのもと、夜間想定にて実施・・・12月）

（ゆうかり）

3寮、及び耳納学園合同で1回夜間想定にて実施・・・10月

毎月1回各寮別に実施。

ゆうかり全体にて12月に浮羽消防署、久留米消防署善導寺出張所合同にて総合訓練を実施。

院内感染対策委員会

《概況》

今年度は手足口病・インフルエンザ A 型感染症がみられた。平成 24 年度はノロウイルス感染症が大流行したため、今年度も感染性胃腸炎疑いで 15 件検査を行うも、発症はなかった。ノロウイルス感染についての勉強会を 2 回取り上げたことで、感染対策の意識向上につながったと思われる。

新築移転に伴いワンフロアから各居室になり、手洗い場所の増加、24 時間換気、ハード面の充実、感染症流行時疑い時等も他寮の利用者、職員との交流が制限できたことなどが、感染拡大防止になったと思われる。

衛生管理は、院内感染対策委員会のなかで年間計画に沿って勉強を行い、全職員の健康・安全に留意している。

月	内 容
4 月	平成 25 年度年間計画について
5 月	風疹について 手洗いパトロール
6 月	鳥インフルエンザについて
7 月	ノロウイルス感染症について
8 月	夏のウイルス感染症について
9 月	手足口病について 環境パトロール
10 月	インフルエンザ感染症について
11 月	結核について
12 月	クラミジア感染症について
1 月	百日咳について
2 月	ノロウイルス感染症について
3 月	平成 25 年度感染症報告について 手洗いパトロール

開催日 毎月第 1 金曜日

開催時間 9 : 30 ~ 10 : 00

委員 所長他 17 名

(手洗いパトロール)

今年度は、手洗いパトロールと環境パトロールを実施、5月は新人職員を中心に、9月は環境パトロールを行い、手洗い場所の液体せっけんや手指消毒剤の設置、換気扇等環境整備の確認を行う。2回目の手洗いパトロールは、手洗いチェッカーを使用して洗い残しを確認した。現場での看護、介助場面での手指消毒・手洗いは、まだ職員一人ひとりの意識の差が見られるが、引き続き委員会より手洗いの重要性を周知徹底していかなければならない。

衛生管理の年間議事内容

月	内 容
4月	平成25年度年間計画について
5月	熱中症について
6月	食中毒について
7月	福祉施設と感染症：疥癬
8月	福祉施設における腰痛対策
9月	福祉施設と感染症：レジオネラ
10月	職場におけるメンタルヘルスケア
11月	福祉施設と感染症：ノロウイルス
12月	福祉施設と感染症：インフルエンザ
1月	喫煙対策について
2月	インフルエンザ治療薬と耐性ウイルスについて
3月	睡眠障害について

《概況》

広報委員会は、広報紙の発行とホームページの管理を担っている。

広報紙は6月1日（41号）、10月1日（42号）、2月1日（43号）の年間3回発行し、委員6名で構成した編集会議は、施設内LANを活用して年間3～4回にとどめ、締め切り内に発行することが出来た。

ホームページに関しては、インフォメーションなど手軽に更新できるようにリニューアルしているが、更新数が増えてこない現状である。

広報紙各号の内容および配布先や発行部数は、以下の通りである。

[発行内容]

- 第41号（平成25年6月1日発行） 表紙…移転新築落成式風景
 - ・ 移転新築関係特集…施設や設備の紹介、利用者様の声など
 - ・ こえだ物語36（ミュージックフェスティバル参加の紹介）
 - ・ 今日の仲間24（中学部、高等部計7名の入学者紹介）
 - ・ 施設だより（各施設・寮の行事紹介）、お知らせや善意のかずかず他
 - ・ 24年度事業報告、決算状況報告および25年度事業計画の報告記事
- 第42号（平成25年10月1日発行） 表紙…ともだち寮
 - ・ 新施設機能の地域開放について紹介…日野康英事務局長
 - ・ こえだ物語37（田主丸ビルサービスの洗濯業務紹介）
 - ・ 今日の仲間25（コアラ園、耳納学園、千歳療護園、なかよし寮の仲間）
 - ・ 施設だより（各施設・寮の行事紹介）
 - ・ ニュースやお知らせ、善意のかずかず、新人職員紹介他
- 第43号（平成26年2月1日発行） 表紙…なかよし寮
 - ・ 新春インタビュー「年頭に当って」…日野博愛理事長
 - ・ こえだ物語38（九州福祉施設交歓野球大会参加の紹介）
 - ・ 今日の仲間26（おひさま寮、コアラ園、ともだち寮、支援Cちとせの仲間）
 - ・ 施設だより（各施設・寮の行事紹介）
 - ・ ニュースやお知らせ、善意のかずかず、永年勤続表彰、新人職員の紹介他

[配布先および発行部数]

- ◎学園関係（利用者様及び園内各部署、賛助会員様等に配布…400部）
- ◎行政や地域、関連諸施設、学校などに配布（700部）
- ◎1回の発行部数は1,200部、年間発行部数は3,600部であった。

療育会議運営委員会

9月の局長講義は法人事務局の指示で、久留米市男女平等推進センターより石本宗子先生を招き、「パワハラ・セクハラ」について講義をして頂き、ゆうかり学園の職員がパワハラ・セクハラについて考え、行動して行くための良いきっかけになった。また、12月の「虐待防止研修会」も、理事長の指示で11月の「感染症研修会」と入れ換え、平成25年10月に熊本で行われた第5回サービス提供職員研修会にて行われた「虐待防止・差別解消の意識徹底」の伝達講習を実施している。

1月の予備日はゆうかり医療療育センターより「個別支援プラン作成について」に使用したいとの申し出があり変更したが、その他は予定通り実施している。

今年度も人権問題（外部講師）については、9月と2月に実施している。

昨年理事長より指示があった、「療育会議の在り方について」検討した結果、4月からは法人全体（全員が集まる）での会議として、毎月第2水曜日に理事長を始めとする講義や衛生管理・各研修会の他にQC発表会、年度末に行っていた苦情解決・安全管理委員会等の報告会を行うようにし、毎月第4水曜日は各施設・寮単位で運営した。

前年度まで、毎週（水）行っていた療育会議であったが、今年度は月2回とし、その他の週は利用者様の支援に使用するようにした。

記録は、PCデスクネットを利用し報告するようにしたが、プリントアウト等がうまくいかず、3月より事務所のポストを使用し配布するようにした。

(平成25年度) 療育会議実施 H25年4月～H26年3月

日付	会議名(担当)	司会	記録	準備・片付	日付	会議名(担当)	司会	記録	準備・片付
4/10	各施設・寮				10/9	安全管理研修会	T・O	M・O	ともだち看護
4/24	各施設・寮				10/23	各施設・寮			
5/8	QC発表会	K・W	Y・I	耳納・給食	11/13	虐待防止研修会	M・O	R・H	なかよし看護
5/22	各施設・寮				11/27	各施設・寮			
6/12	QC発表会	Y・I	F・T	ともだち育成	12/11	感染症研修会	K・Y	T・M	おひさま育成
6/26	各施設・寮				12/25	各施設・寮			
7/10	衛生管理研修会 (メンタルヘルス)	F・T	H・I	おひさま看護	1/8	個別支援プラン 作成について			耳納・給食
7/24	盆踊り準備				1/22	各施設・寮			
8/14	お盆休み				2/12	外部講師 (人権問題)	T・M	T・S	ともだち育成
8/28	外部講師 (パワハラ・セクハラ)	H・I	S・H	なかよし育成	2/26	各施設・寮			
9/11	外部講師 (人権問題)	S・H	T・O	訓練	3/12	報告会 (苦情解決・安全管理 感染症委員会)	R・H	K・M	おひさま看護
9/25	各施設・寮				3/26	各施設・寮			

※ 第2週目にできなかつた場合、第4週目に変更することがある

福祉QC委員会

今年度は、新しい施設に移転して、各部署とも試行錯誤しながら利用者様への処遇向上に取り組み、8サークルがQC活動を行った。しかし、1サークルがQC活動を途中で断念する結果となった。仕切りなおして、次年度に再活動を行いたいとリーダーより報告があった。QC委員会にて、ゆうかり医療療育センター3寮のQC活動は、看護・育成・訓練、合同での活動を実施してきたが、新しい施設へ移転して、各部署一つ一つ積み上げながら仕事を行っている段階である。24サークルの活動が終了したことから、以前のように各部署で、QC活動を行ってはどうかとの意見が出され、QC委員全員の了承により、次年度より実施することとし、1サイクルを3年間、毎年8サークル、合計24サークルでのQC活動を行うことを確認した。

第24回「福祉QC」全国発表大会出場サークルについて

平成25年11月27日～11月28日（東京にて開催）

（平成24年度優秀チーム2組が出場）

- ・ ゆうかり医療療育センター なかよし寮 「Hot でホット」
テーマ「アクシデントを減らそう」
秋山 晴香・小川 芳恵
- ・ 心理療育部・地域事業部 「まいしん」
テーマ「支援情報の整理と共有」
前田 春菜・古賀 剛

25年度 活動サークル

所 属	サークル名	テーマ
なかよし寮	山から里へ	車いす乗車時間を減らそう
ともだち寮	ペッパー警部	ペーパータオルの使用量を減らそう
ともだち寮	黄門様	「おなかスッキリ」～洗腸の回数を減らそう～
おひさま寮	JKM 9	プライバシー保護における意識改革 (サブタイトル) 排泄・更衣介助におけるプライバシーの保護対策
おひさま寮	スクラム E	下駄箱の上手な使い方
給食部	なでしこ給食隊	より良い幼児食にするためには
千歳療護園	チュウボウですよ	厨房内の伝達が不十分 (サブタイトル) 引継のミスをなくす